

三条看護・医療・歯科衛生専門学校

2023 年度 歯科衛生士学科

第1 学年（4 期生）
シラバス

名簿番号 氏名

三条看護・医療・歯科衛生専門学校（HOSP!）のポリシー

〈 教育の基本理念・建学の精神 〉

高い専門能力を追求しながらも、単に知識・技術教育に偏ることなく、広い視野と豊かな人間性を持った、創造性に満ちた人材の育成を通じ、地域医療に貢献することで、地域の課題に寄与していく。

〈 教育方針 〉

目的：現代社会・地域において求められている医療系人材の育成

「専門性・人間性・創造性」と共に、社会的常識・基本マナー、高いコミュニケーション能力、明るく健康的で建設的な意志等を兼ね備えた、地域の医療現場で貢献し続けることができる専門職業人を育成。

アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針） **全学科共通**

1. 相手の気持ちに配慮し、自分の思いを伝えるコミュニケーションができる人
2. 命の大切さを考え、優しい行動がとれる人
3. 物事になぜという疑問を持ち、考えようとする人
4. 他者と協調し、チーム連携、協働ができる人
5. 学び続ける意欲がある人

カリキュラムポリシー（教育課程編成方針） **歯科衛生士学科**

《人間力・教養の涵養*（かんよう）》*自然にしみこむように養成すること

多角的視点で理解できる力を養うために、専門科目以外に人間関係論、倫理学をはじめ基礎的な教養科目を配置する。更に、人間力育成のために接遇・マナーの科目を入学後早期に配置する。

《専門力・チーム協働力》

自ら考え、自ら学習する力を養うために、能動型の授業・実習を実施する。保健・医療・福祉チームの一員としての認識を深めるために、多様な場での臨地実習（歯科医院・高齢者施設・訪問看護・教育機関等での実習）を配置する。

《自己研鑽》

社会の変化に対応した専門職として学び続ける姿勢を身につけるために、目的・目標を意識した学習活動を実践する。更に、国家試験合格に向けた計画実践検証型の学習方法を実施する。

ディプロマポリシー（卒業認定・人材育成方針） **歯科衛生士学科**

1. 人間を尊重し、感性豊かな人間性を身につけている。
2. 対象者個々の健康を自然、社会、文化的環境など全体的な視点から見ることができ理解できる能力を身につけている。
3. 対象者の持つ問題を解決する点をアプローチできる基礎的能力を身につけている。
4. 保健、医療、福祉チームの一員としての役割を担うことができる。
5. 口腔衛生の本質を理解して、自らの口腔衛生に対する考えを明確にすることができる。

歯科衛生士学科 第1学年 授業科目一覧

区分	教育内容	科目	前期	後期	ページ
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	✓		1
		化学	✓		2
		情報科学	✓		3-4
	人間と生活	心理学	✓		5
		人間関係論	✓		6
		社会・教育学		✓	7
		倫理学	✓		8
		英語	✓		9
		保健体育		✓	10
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖・生理学	✓		11
		組織発生学		✓	12
	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学		✓	13
		口腔組織発生学	✓		14
		口腔生理学		✓	15
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	生化学		✓	16
		病理学		✓	17
		微生物学		✓	18
		薬理学		✓	19
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	栄養学		✓	20
		口腔衛生学	✓		21
		衛生行政・社会福祉		✓	22
		関係法規		✓	23
専門分野	歯科衛生士概論	歯科臨床概論	✓	✓	24, 25
	歯科予防処置論	歯科予防処置 1 (基礎知識・基本技術)	✓	✓	26-28
		歯科予防処置演習 2 (臨床前期)	✓		29
		歯科予防処置演習 3 (臨床後期)		✓	30
	歯科保健指導論	歯科保健指導演習 1		✓	31
	歯科診療補助論	歯科診療補助法	✓	✓	32, 33
		歯科診療補助演習 1 (基本知識・基本技術)		✓	34
		臨床検査法		✓	35
臨地実習	臨地実習 1	✓	✓	36	
選択必修分野		接遇・マナー	✓		37
		カラーコーディネート	✓		38
		キャリアデザイン	✓		39

<留意事項>

1. 授業の日程や内容等に変更が生じる場合あり（感染症の拡大状況や災害等による）。
2. 授業に関する連絡は、口頭もしくは push 通知でお知らせするため、毎日複数回 push 通知を確認すること。

科目名	論理学		担当	井山 弘幸			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	前期	単位数	2単位	評価法
			授業形態	講義	時間数	30時間	
時期				演習	授業回数	15回	・試験 ・受講態度
授業の概要	物事を論理的に思考し、客観的な物の見方、考え方、表現力を習得する。						
到達目標	物事の正しい思考の筋道（しかた）について、またそれを論理的に表現する力、伝える力を養う。						
回	授業計画						
1	論理を学ぶことの意義と論理不在の日常。						
2	論理的と理論的の違い。情意的との違いも。						
3	論理と事実との関係。論理は何を解決するか。						
4	ものごとには真と偽がある。真偽と境界領域						
5	否定の論理は何を意味するか。						
6	推論の形式。「ゆえに」「したがって」の語法。						
7	論理と集合論。論理学と数学との関係。						
8	当たり前の論理と「当たり前」を疑う懐疑の習慣について。						
9	普遍命題と個別命題。全称命題と単称命題。どこが違う。						
10	帰納的推理とデータからの一般化。どうやって知識を得るか。						
11	演繹的推理と公理、原理そしてプロトコル。						
12	三段論法と日常の推理の実践。						
13	誤謬論理とパラドックス。騙されないための処世術。						
14	世に流布する欺瞞的論理と対策。論理学と倫理、道徳との関わり。						

15	まとめ
教科書	『ロンリのちから』
参考書	アンソニー・ウェストン『論証のルールブック』（ちくま学芸文庫）
備考	

科目名	化学		担当	井山 弘幸			
年次 時期	歯科衛生士学科	1年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法 ・試験 ・受講態度
			授業形態	講義	時間数	30時間	
					授業回数	15回	
授業の概要	化学の基礎的知識や化学物質の性質を理解し、化学が現代の社会や生活において欠かせないことを認識する。無機化学と有機化学の基礎的知識及び歯科臨床でも役立つ化学の基礎について視覚教材を活用して理解していく。						
到達目標	医療の現場に必要な化学の知識を学習する。						
回	授業計画						
1	物質の多様な種類と構造						
2	日常世界をとりまく原子・分子（1）単体						
3	日常世界をとりまく原子・分子（2）無機化合物						
4	日常世界をとりまく原子・分子（3）有機化合物						

5	物質変化と化学反応 (1) 分解反応
6	物質量のさまざまな測定法
7	物質変化と化学反応 (2) 合成反応
8	物質変化と化学反応 (3) 酸化と還元
9	医療現場における気体化合物
10	毒性化合物の知識と管理
11	さまざまな化学法則と量的予測計算
12	環境基準と化学知識
13	放射性物質の化学
14	食品管理と栄養の化学 医薬品の化学、薬理作用と生理反応
15	まとめ
教科書	『系統看護学講座・化学』(医学書院)
参考書	『化学史の常識』(講談社) 『スプーンと元素表』(早川文庫)

担当教員	野崎 直史	学科	歯科衛生士学科	対象学年	1年	開講時期	期
授業形態	講義及び演習	単位数	1.0	時間数	30時間	授業回数	15回
科目概要	<p>近年の歯科医療の分野でのデジタル化に伴い、歯科とデジタルは密接な関係になっています。</p> <p>その中で、デジタル技術を基盤としたデジタル歯科医療、いわゆるデジタルデンティストリーを考え、今まで使用してきた身近な Office を使用しつつ、あらゆる面から歯科医療に役立つ情報や技術を取得して貰う科目にしていきます。</p>						
教科書	<p>仕事力を高める Excel 学びのテキスト PowerPoint2019 クイックマスター</p> <p>仕事力を高める Word 学びのテキスト</p>						
参考書	配布資料（プリント配布）						
一般目標 (G10)	<p>歯科医療とデジタルを結び付け、より理解して、学び、今後の歯科の仕事に結びつけられる技術の習得を目指します。</p>						
行動目標 (SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科における情報とは何か？ 歯科とITの関係性について説明する。 2. 歯科医院のアナログからデジタルの変化に対応について説明する。 3. 歯科に必要なコンピューター知識について説明する。 4. ネットワークや情報セキュリティの必要な知識について説明する。 5. 歯科と表計算について実践する。 6. 数式と関数について、グラフや簡単なマクロについて実践する。 7. 歯科と文章入力ソフトについて実践する。 8. 院内掲示や紹介状作成、資料作成など、あらゆる場面で、対応可能な文章を実践する。 9. スライドやデザインとアニメーションについて実践する。 						

	10. プレゼンのやり方・絵コンテ作成について実践する。	
	11. 課題をグループで作成し、グループ単位で発表する。	
学習成果	ディプロマポリシー	関連性
	1. 人間を尊重し、感性豊かな人間性を身につけている	○
	2. 対象者個々の健康を自然、社会、文化的環境など全体的な視点から見ることができ理解できる能力を身につけている	
	3. 対象者の持つ問題を解決する点をアプローチできる基礎的能力を身につけている	○
	4. 保健、医療、福祉チームの一員としての役割を担うことができる	○
	5. 口腔衛生の本質を理解して、自らの口腔衛生に対する考えを明確にすることができる	
	カリキュラムポリシー	関連性
	《人間力・教養の涵養(かんよう)*》*自然にしみこむように養成すること 多角的視点で理解できる力を養うために、専門科目以外に人間関係論、倫理学をはじめ基礎的な教養科目を配置する。更に、人間力育成のために接遇・マナーの科目を入学後早期に配置する。	
	《専門力・チーム協働力》自ら考え、自ら学習する力を養うために、能動型の授業・実習を実施する。保健・医療・福祉チームの一員としての認識を深めるために、多様な場での臨地実習（歯科医院・高齢者施設・訪問看護・教育機関等での実習）を配置する。	○
	《自己研鑽》社会の変化に対応した専門職として学び続ける姿勢を身につけるために、目的・目標を意識した学習活動を実践する。	○
評価方法	最後、総まとめを実施し評価判断をする。	
オフィスアワー	三条看護・医療・歯科衛生専門学校 授業終了後	

回	授業項目	授業内容	SBOs	担当者
1	情報と歯科	1 歯科における情報 2 情報の特性 3 歯科とIT	1	野崎
2	情報化社会	1 情報化社会 2 アナログからデジタルへ 3 電子カルテ 4 歯科とコンピューター知識	2, 3	野崎
3	ネットワーク	1 ネットワークについて 2 情報セキュリティ	4	野崎
4	Excel	表計算	5	野崎
5	Excel	数式と関数	6	野崎
6	Excel	グラフ・簡単なマクロ	6	野崎
7	Word	歯科と Word	7	野崎
8	Word	紹介状作成、資料作成	8	野崎
9	Word	紹介状作成、資料作成	8	野崎
10	Power Point	スライド	9	野崎
11	Power Point	デザインとアニメーション	9	野崎
12	Power Point	プレゼンのやり方・絵コンテ作成	10	野崎
13	Power Point	課題作成 (グループ)	11	野崎
14	Power Point	課題作成 (グループ)	11	野崎
15	プレゼンテーション	グループ課題発表	11	野崎

科目名	心理学		担当	山之内 則雄			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法
			授業形態	講義	時間数	30時間	
時期				演習	授業回数	15回	・受講態度
授業の概要	心理学の基礎的知識及び人間心理と人間の行動について学ぶ。						
到達目標	医療現場において患者心理を意識した行動をとれるようにする。						
回	授業計画						
1	心理学の方法						
2	個体発生的研究						
3	精神分析学						
4	精神分析学						
5	行動研究と心理学						
6	行動の水準						

7	古典的条件付け
8	シンボル機能と発達レベル
9	意識と行動
10	意識の成立過程
11	遺伝と環境
12	刷り込み
13	記憶について
14	学習・記憶の神経学的基礎
15	まとめ
教科書	「心理学」編集.：鹿取廣人/杉本敏夫/鳥居修晃 東京大学出版会
参考書	
備考	

5

科目名	人間関係論		担当	神田 誠子			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法 試験
			授業形態	講義	時間数	30時間	

時期					授業回数	15回	受講態度
授業の概要	人間関係の心理法則を学ぶことで、人間関係を円滑にすることができる						
到達目標	人間関係の心理法則を理解して、積極的にコミュニケーションをとれるようになる。						
回	授業計画						
1	印象形成と対人認知						
2	対人魅力						
3	言語的、非言語的コミュニケーション						
4	向社会的行動と攻撃行動						
5	性格と人間関係						
6	自己概念と人間関係						
7	自己概念と人間関係						
8	日本的自己と人間関係						
9	日本的自己と人間関係						
10	友人関係・恋愛関係						
11	家族関係						
12	態度変容と説得的コミュニケーション						
13	リーダーシップ						
14	集団心理と同調行動						
15	まとめ						
教科書	「心の世界を学ぶ はじめてふれる人間関係の心理学」 サイエンス社						
参考書							

備考	
----	--

6

科目名	社会・教育学		担当	山之内 則雄（社会学）山田 容子（教育学）			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	後期	単位数	1単位	評価法 ・試験 ・受講態度
時期			授業形態	講義	時間数	30時間	
				演習	授業回数	15回	
授業の概要	<p>（社会学）社会と関わりあう個々人の行為、社会化、社会の構成について理解を深める。さらに、社会のグローバル化に対処するため、日本を含めた民族問題に触れる。また、社会の多様化を受け入れたために、ジェンダー等についても触れる。</p> <p>（教育学）医療関連業務では人に教える場面が多い、そこでは患者となったさまざまな人間に会う、そして歯科衛生士も社会をつくる一人の市民である。こうしたことを考慮して選んだ資料を読み、互いに意見交換をする。</p>						
到達目標	<p>（社会学）高齢化の急進展につれ、医療も変化せざるを得ない。患者の増加は社会の病理現象の一顕現であることを認識し、技術面だけでなく精神面でも患者に寄り添っていけるようにする。</p> <p>（教育学）資料を読んで内容を理解するとともに、それについて自分の意見を形成し、表明することができるようになること。</p>						
回	授業計画						
1	地域・社会と学校						
2	教師の職務と専門性						

3	教育の今日的課題
4	社会と集団
5	地域社会と都市化
6	社会保険制度
7	社会保険制度
8	オリエンテーション、教育学で何を学ぶのか
9	私が出会うさまざまな人たち（1）
10	私が出会うさまざまな人たち（2）
11	私が出会うさまざまな人たち（3）
12	私の身近な教育問題（1）
13	私の身近な教育問題（2）
14	私の身近な教育問題（3）
15	まとめ
教科書	適宜にプリントを配布する
参考書	
備考	

科目名	倫理学		担当	栗原 隆			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法

時期			授業形態	講義	時間数	30 時間	試験
					授業回数	15 回	受講態度
授業の概要	医療従事者にとって必要な倫理を学び、歯科衛生士として「どうあるべきか」を考える。						
到達目標	倫理とは「どうするべきか」を考え、判断することです。いろんな事態・ケースがあり得る医療の現場で、規則を覚えるのではなく、その時、そのケースに応じて「いかに対処するべきか」という倫理的判断を下すことのできる思考力と判断力を涵養することを目指します。						
回	授業計画						
1	生命倫理学や看護倫理が要請されるに至った経緯						
2	ケアの本質とは何か？						
3	抑制廃止によって必要とされるに到ったより高次のケア						
4	「生命の尊厳」と「生命の質」との立場の違いによる延命治療についての対立的な判断						
5	安楽死の許される条件と尊厳死						
6	拡がる生殖補助医療とその仕組み						
7	減数手術とは何か						
8	ヒトクローン胚の作製と、iPS 細胞からの再生医療						
9	インフォームド・コンセントと自己決定権						
10	脳死からの臓器移植						
11	医療資源の配分と人工透析の治療停止						
12	高額医薬品の開発と間葉系幹細胞からの再生医療						
13	出生前診断と選択的人工中絶、私たちは生まれてくる子どもに何を望むのか						
14	歯科医療従事者に必要とされること						

15	まとめ
教科書	『(改定版) 看護のための生命倫理』小林亜津子著、ナカニシヤ出版
参考書	『現代を生きてゆくための倫理学』栗原隆著、ナカニシ出版
備考	

8

科目名	英語		担当	福原 純子			
年次	歯科衛生士	1年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法
	学科						
時期			授業形態	講義	時間数	30時間	受講態度
授業の概要	日常会話で頻繁に用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。また、当該専門職として必要となる語彙や基本表現も身につける。						
到達目標	基礎的な英語の Listening, Reading, Speaking, Writing が向上する。英語のコミュニケーションを通して、自分のことを知り、相手に伝え、また相手の話を聞く姿勢を養う。						
回	授業計画						
1	オリエンテーション、英語で自己紹介をする						
2	相手を知る質問、丁寧な尋ね方を学習する						

3	受付での英語、初診時の表現
4	治療の種類
5	病歴、家族歴を尋ねる
6	症状を尋ねる（痛み、その他の症状、期間など）
7	患者に対して処置を説明する。
8	ブラッシングの指導、器具や備品の説明
9	ブラッシングについての質問を受ける
10	口腔清掃についての説明、注意など
11	子どものための口腔衛生指導
12	服薬についての指導、説明
13	会計、治療費などの説明
14	歯科衛生士に何が必要か、ルーティン業務について
15	まとめ
教科書	「スタッフのための歯科英語」 医歯薬出版株式会社
参考書	
備考	

授業科目

保健体育

【科目担当】 秋山 隆之		【対象学年】 1		
【単位数】 1	【時間数】 30	【開講時期】 後期		
【科目概要・目標】 健康を獲得・維持するための健康科学に関する基礎的な理論と適切な運動方法を習得する。				
【行動目標】SBO 1.健康な生活を送るための健康科学に関する知識を学び、身体に関する基本的な知識を説明することができる。 2.健康な生活を送るための適切な運動方法を組み立て、実践することができる。 3.自らの心身を健康に保つ方法を考えることができる。 4.運動による健康の保持増進の必要性を理解することができる。 5.運動実践を通してコミュニケーション能力を高める必要性に気付くことができる。				
【授業計画】				
回数	SBO	内容	授業形態	担当
1	1.4	オリエンテーション・健康づくり施策概論	講義（対面と遠隔）	秋山 隆之
2	2.5	体ほぐしの運動・ストレッチング・ソフトバレーボール	実技（対面）	秋山 隆之
3	1.3	現代社会における運動やスポーツの意義	講義（対面と遠隔）	秋山 隆之
4	2.5	コーディネーション・ストレッチング・バドミントン	実技（対面）	秋山 隆之
5	1.4	体力測定の方法と留意点・トレーニング理論	講義（対面と遠隔）	秋山 隆之
6	2.5	上体起こし・反復横跳び・ソフトバレーボール	実技（対面）	秋山 隆之
7	2.5	ウォーキング・ジョギング・バドミントン	実技（対面）	秋山 隆之
8	2.5	ストレッチング・バドミントン	実技（対面）	秋山 隆之
9	2.5	ウォーキング・ジョギング・ソフトバレーボール	実技（対面）	秋山 隆之
10	2.5	ストレッチング・ソフトバレーボール	実技（対面）	秋山 隆之
11	3.5	ウォーキング・ジョギング・バドミントン	実技（対面と遠隔）	秋山 隆之
12	3.5	ストレッチング・バドミントン	実技（対面と遠隔）	秋山 隆之
13	3.5	ウォーキング・ジョギング・ソフトバレーボール	実技（対面と遠隔）	秋山 隆之
14	3.5	ストレッチング・ソフトバレーボール	実技（対面）	秋山 隆之
15	1~5	健康づくりにおける身体活動の意義・授業のまとめ	講義（対面）	秋山 隆之
【使用テキスト】 適宜ハンドアウトを配布する。				
【評価方法】 実践行動，授業内レポート課題を評価対象とする。 ※実技は動きやすい服装・上履きで参加してください。				

科目名	解剖・生理学		担当	佐宗亜衣子			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	前期	単位数	2単位	評価法
			授業形態	講義	時間数	30時間	
時期					授業回数	15回	・受講態度
授業の概要	<p>医学・医療を学ぶ上で、全ての土台となるのが解剖学と生理学である。解剖学は、人体の基本構造について体系的に学び、人体内における正常な形態と構造を理解していく学問である。人体を理解し、全身の健康や病気について学ぶための、最初のステップとなる。骨・筋・内蔵・感覚器・神経など、細かく分類し学んでゆく。</p> <p>一方で生理学は、身体の機能（働き）を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで生じるかを探求する学問である。人体を構成する各部位の器官・組織・細胞などについて物理・化学的側面から、代謝・運動・消化・循環・呼吸・排出・生殖などについて学ぶ。解剖学と生理学の両側面から学ぶことで人体への理解が深まり、病気や検査、治療について学ぶための基礎知識を身につけることができる。</p>						
到達目標	<p>解剖学の種類や分類について学び、人体の正常な形態と構造について理解する。また、生理学では生体の正常な働きや生命現象の基礎を学ぶ。神経系と内分泌系による調整機能を理解し、骨格・呼吸器・循環器・消化器・泌尿器・生殖器について形態と機能を理解する。</p>						
回	授業計画						
1	解剖生理学概論						
2	骨格						
3	筋と運動 1						
4	筋と運動 2						
5	消化・吸収 1						
6	消化・吸収 2						

7	循環 1
8	循環 2
9	神経系 1
10	神経系 2
11	呼吸
12	感覚
13	排泄
14	生殖器
15	体温・内分泌
教科書	「歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版株式会社
参考書	「イラストでわかる歯科医学の基礎」 永末書店
備考	

科目名	組織発生学		担当	佐宗亜衣子			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	後期	単位数	2単位	評価法 ・試験
			授業形態	講義	時間数	30時間	
時期					授業回数	15回	・受講態度
授業の概要	人体において基本的な単位とは細胞であり、細胞が集まって組織となり、組織が集まって臓器となり、臓器が集まって器官をなす。人体を構成する構造について階層的に学び、構造と機能の関係や各器官の特徴を理						

	解する。次に、人体の発生時に出現する組織構造を理解し、発生機序についての知識を習得する。
到達目標	人体を構成する各種細胞、組織における種類と微細構造、細胞の分化・構築・機能を理解する。 また、人の発生時の構造について理解する。
回	授業計画
1	組織発生概論
2	細胞の構造と機能
3	支持組織
4	筋組織
5	神経組織
6	皮膚と粘膜
7	造血器官とリンパ性器官
8	内分泌系
9	口腔組織（歯・歯周組織）
10	消化器系
11	発生 1（体細胞と生殖細胞）
12	発生 2（受精から胚葉）
13	胎児の成長 1（胚子期）
14	胎児の成長 2（胎児期）
15	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 人体の構造機能 1 解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版株式会社

参考書	「イラストでわかる歯科医学の基礎」 永末書店
備考	

12

科目名	口腔解剖学		担当	斎藤了、斎藤 純子			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	後期	単位数	1単位	評価法 ・試験
			授業形態	講義	時間数	30時間	
時期				演習	授業回数	15回	・受講態度
授業の概要	<p>口腔とは消化管の始まりの部分であり、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割がある。それらの機能を営むために、歯、歯周組織、舌、唾液腺を備えている。本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造に関する理解を深める。口腔解剖学の概要を学び、歯及び口腔付近の解剖について理解を深め、解剖学的側面から説明できるようにする。</p>						
到達目標	<p>歯科医療に従事する者として、その最も基礎的な知識であるヒトの歯の基本的構造、歯種、形態を理解し、説明できる。歯や口腔の形態を表すための解剖学用語を理解する。</p>						
回	授業計画						
1	口腔の範囲、口腔前庭と固有口腔、舌の構造、唾液腺						
2	口腔を構成する骨、副鼻腔						
3	頭頸部の筋と作用、顎関節						

4	口腔付近の脈管（動脈系、静脈系、リンパ系）
5	脳神経（三叉神経、顔面神経、舌咽神経、舌下神経）、舌の神経支配、自律神経
6	歯と歯周組織の構造、歯の種類と数、表示法、歯式
7	歯の用語、位置による名称
8	永久歯の形態学的特徴（切歯、犬歯）
9	永久歯の形態学的特徴（小臼歯）
10	永久歯の形態学的特徴（上顎大臼歯）、上第一大臼歯のスケッチ
11	永久歯の形態学的特徴（下顎大臼歯）、下第一大臼歯のスケッチ
12	歯の鑑別法
13	乳歯の形態学的特徴
14	特徴ある歯の形態、歯列と咬合
15	まとめ
教科書	「歯科衛生士学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全 国歯科衛生士教育協会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	
備考	

科目名	口腔組織発生学	担当	吉江 弘正
------------	---------	-----------	-------

年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	前期	単位数	2単位	評価法
	時期			授業形態	講義	時間数	
					演習	授業回数	15回
授業の概要	<p>口腔とは消化管の始まりの部分であり、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割があり、それらの機能を営むために、歯、歯周組織、舌、唾液腺を備えている。本科目では、口腔組織発生学の概要を学び、歯及び口腔の発生について理解する。</p>						
到達目標	<p>歯科医療に従事する者として、その最も基礎的な知識であるヒト歯の発生、歯の組織を理解し、歯周組織との関連を理解する。</p>						
回	授業計画						
1	口腔組織発生概説						
2	エナメル質 1						
3	エナメル質 2						
4	象牙質 1						
5	象牙質 2						
6	歯髄						
7	セメント質						
8	歯根膜						
9	歯槽骨						
10	歯肉、粘膜						
11	歯と歯周組織の発生 1						
12	歯と歯周組織の発生 2						

13	顔面、口腔の発生
14	学生によるテーマ発表 (term based learning)
15	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士 教育協議会 監修、医歯薬出版株式会社
参考書	
備考	

14

科目名	口腔生理学		担当	幾野 博			
年次	歯科衛生士	1年	開講時期	後期	単位数	2単位	評価法 ・試験 ・受講態度
	学科		授業形態	講義	時間数	30時間	
時期					授業回数	15回	
授業の概要	<p>高齢者・要介護者が抱える諸問題の中でも咀嚼・嚥下・発声の障害は今後も増加することが予想される。そこで、歯・口腔とその周囲組織の生理機能に関する十分な基礎知識が必要となる。はじめに、歯や口腔粘膜の感覚、味覚及び嗅覚について学習する。続いて、咬合・咀嚼・嚥下・発声の基本知識を習得する。嚥下のメカニズムに関して、特に詳しく学習する。また、唾液の分泌機構や唾液の機能について理解する。</p>						

到達目標	歯・口腔とその周囲組織の生理機能に関する基礎知識を習得する
回	授業計画
1	総論：診療や往診場面を提示し生理機能の重要性を説く
2	感覚生理学総論、顔面・口腔粘膜の一般感覚
3	歯の触圧感覚、位置感覚、歯髄感覚(歯の痛み)
4	味覚
5	嗅覚
6	下顎位
7	下顎運動
8	顎反射
9	摂食行動と咀嚼運動
10	唾液
11	嚥下 1：嚥下に関わる筋肉群
12	嚥下 2：嚥下の神経制御機構
13	嘔吐
14	発声
15	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	「みんなでワッ歯ッ歯」新潟県歯科医師会編著、新潟日報事業社、他
備考	1 回目の講義で上記他の参考書を提示し、次回以降は準備学習として、当日履修する項目に目を通してお

くこととする。

15

科目名	生化学		担当	山本 達男			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	後期	単位数	1単位	評価法
			授業形態	講義	時間数	30時間	
時期					授業回数	15回	・受講態度
授業の概要	<p>生命現象を、生体構成成分や栄養素が体内で変化する様子やエネルギーが作られる過程、すなわち、化学反応として捉え、これらを生化学的に理解する。口腔に特徴的な歯、歯周組織、唾液、プラーク（歯垢）の構成成分やそこで生じる現象について生化学的な側面から学ぶ。また、口腔は食物の入り口であり、食品はう蝕や歯周病のような口腔疾患と直接関係する。食品に含まれる栄養素と関連する口腔疾患についても生化学的な知識を習得する。</p>						
到達目標	生命現象を生化学的に理解する。						
回	授業計画						
1	生命活動と生化学：(1)細胞の構造と機能、遺伝情報の仕組み						
2	(2)水、酸と塩基、有機化合物						
3	(3)糖質 1：単糖、二糖、多糖						
4	(4)糖質 2：分子構造模型セットを使って単糖、二糖を組み立てる。疾患との関連を理解する。						
5	(5)脂質：模型セットを使って中性脂肪の成分を組み立てる。疾患との関連を理解する。						
6	(6)タンパク質：模型セットを使ってアミノ酸を組み立てる。蛋白質の構造と機能(酵素など)。						

7	(7)糖質代謝と代謝異常
8	(8)脂質代謝と代謝異常
9	(9)タンパク質代謝と代謝異常
10	無機質、ビタミン、ホルモン、内分泌値疾患
11	歯と口の生化学 ：(1)歯と歯周組織
12	(2)硬組織：歯、骨【発表会】
13	(3)唾液
14	(4)プラーク
15	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	
参考資料等	適時印刷資料を配付し、教材とする。小テストは当日配布する。

科目名	病理学		担当	味岡洋一			
年次	歯科衛生士学科	1 学年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価法 ・試験
			授業形態	講義	時間数	30 時間	
時期					授業回数	15 回	・受講態度

授業の概要	<p>病理学とは病気の原因を探り、病気により患者の身体にどのような形態および機能の異常が生じているかや病気の本態、自然経過等について研究する学問分野であり、医学、医療になくてはならない情報を提供している。さらにその研究の成果が実際の患者の病気の診断や検診及び病気の予防にも活かされている。本科目では、病気にはどのような種類があるか、細胞・組織・臓器にどのような変化を生じるかを、肉眼的及び微細構造学的に理解し、個体に現れる症状や徴候についての知識を習得する。</p>
到達目標	<p>種々の疾患で生じる臓器、組織、細胞での形態学的な変化を理解する。とりわけ、硬・軟両組織を含む多数の組織より構築されている顎口腔部位について、その特異的な病変を理解する</p>
回	授業計画
1	病理学序論と病因論
2	炎症と免疫応答異常
3	増殖と修復、腫瘍
4	遺伝性疾患・奇形、循環障害
5	代謝障害・退行性病変
6	口腔病理序論、歯の発育異常
7	歯の損傷・着色・付着物、う蝕
8	象牙質・歯髄複合体の病態
9	歯周組織の病態
10	口腔粘膜の病変、口腔領域の嚢胞性疾患
11	口腔領域の腫瘍
12	唾液腺の病変
13	顎骨の病変

14	口腔領域の奇形と加齢性変化
15	評価
教科書	「歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	「イラストでわかる歯科医学の基礎」永末書店、「新口腔病理学 第2版」医歯薬出版株式会社
備考	

17

科目名	微生物学		担当	山本 達男			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	後期	単位数	1単位	評価法
			授業形態	講義	時間数	30時間	
時期					授業回数	15回	・受講態度
授業の概要	微生物の種類（細菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌、原虫、ウイルスなど）と病原性、さらに疾患の特徴と宿主の防御機構(とくに免疫)を理解し、感染症の診断、治療、予防に関する基礎知識を習得する。これらを踏まえて、さらに口腔に常在する微生物と口腔疾患について学ぶとともに、口腔感染予防についての知識を習得する。						
到達目標	コアとなる微生物と感染症を列挙できる。感染症に関する専門用語と免疫を簡潔に説明できる。化学療法、滅菌と消毒、ワクチン、関連する法律を説明できる。口腔感染症を概説できる。						
回	授業計画						
1	(総論1)新しい時代の感染症、新興・再興・テロ感染症、病原微生物の種類、感染症法						

2	(総論 2) 感染経路と感染対策、微生物の構造、病原性
3	(総論 3) 抗菌薬と化学療法、その他の抗微生物薬
4	(総論 4) 滅菌と消毒、免疫(1)
5	(総論 5) 免疫(2)
6	(総論 6) 予防接種
7	(実習) 顕微鏡観察、化学構造模型を使った抗菌薬の理解
8	(各論 1) グラム陽性球菌と感染症
9	(各論 2) グラム陽性桿菌と感染症、抗酸菌と感染症
10	(各論 3) グラム陰性球菌と感染症、グラム陰性桿菌と感染症
11	(各論 4) 細菌・ウイルス以外の病原体と感染症
12	(各論 5) DNA ウイルスと感染症
13	(各論 6) RNA ウイルスと感染症
14	(特論) 口腔と感染症：まとめ
15	まとめ
教科書	①「歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学」全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版株式会社。②「病原体と感染症 総論編」山本達男編著、国際医学教育研究センター
参考資料等	「病原体と感染症」の別冊資料を配付する。小テストは当日配布する。

科目名	薬理学		担当	弦巻 立			
年次	歯科衛生士学科	1 学年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価法
			授業形態	講義	時間数	30 時間	
時期					授業回数	15 回	・受講態度
授業の概要	<p>薬理学の基礎的知識を習得し、生体と薬物との関りを理解する。総論では薬物治療の目指すもの、薬物の作用機序や薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）、薬効に影響する因子、副作用及び相互作用、薬物の取り扱いや安全管理などについて学ぶ。各論では、様々な疾病に対して臨床上用いられる代表的な治療薬の作用機序、性質、副作用について体系的に学ぶ。また口腔に固有の作用をもつ薬物や歯科領域の治療薬及び予防薬について学ぶ。</p>						
到達目標	歯科衛生士として必要な薬理学の基礎的知識を習得し生体と薬物との関わりを理解する。						
回	授業計画						
1	薬理学総論①：薬物はどのようにして作用するのか						
2	薬理学総論②：薬物の体内動態						
3	薬理学総論③：薬物の作用に影響する要因、副作用、有害作用						
4	薬理学総論④：薬物の取り扱い、薬物と法律						
5	薬理学各論①：ビタミンとホルモン、末梢神経系に作用する薬物						
6	薬理学各論②：中枢神経系に作用する薬物、循環器系に作用する薬物						
7	薬理学各論③：腎臓・呼吸器系・消化器系に作用する薬物						
8	薬理学各論④：血液に作用する薬物、免疫と薬						
9	薬理学各論⑤：悪性腫瘍と薬、代謝性疾患治療薬						

10	薬理学各論⑥：炎症と薬
11	薬理学各論⑦：痛みと薬
12	薬理学各論⑧：抗感染症薬・消毒に対する薬
13	薬理学各論⑨：う蝕予防薬、歯内療法薬
14	薬理学各論⑩：歯周疾患治療薬
15	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学」 医歯薬出版株式会社
参考書	「イラストでわかる歯科医学の基礎」 永末書店
備考	

科目名	栄養学		担当	牧野 令子			
年次時期	歯科衛生士学科	1年	開講時期	後期	単位数	1単位	評価法 ・試験 ・受講態度
			授業形態	講義	時間数	30時間	
					授業回数	15回	
授業の概要	<p>栄養は、健康な生命活動を維持・増進するために必要な物質を食品から利用する現象である。はじめに、栄養の基礎を理解し、基礎代謝や食事摂取基準の基礎知識を習得する。続いて、栄養素の消化吸収や各種栄養素の名称と働きについて学ぶ。さらに、日本人の食生活から健康と栄養の</p>						

	現状を把握し、食生活習慣と健康や疾病とのかかわりについて理解を深めるとともに、望ましい食生活を理解する。また、ライフステージ別の栄養と調理についても学ぶ。
到達目標	(1)栄養学の必要性、栄養素の消化吸収及び働きを理解する。(2)望ましい食生活、国民の健康と栄養の実態、調理とライフスタイルを理解する。(3)各種食品成分と分類、嗜好性について理解する。
回	授業計画
1	栄養の基礎知識(1)なぜ栄養学を学ぶのか、栄養素とは何か
2	栄養の基礎知識(2) 栄養素の消化・吸収
3	日本人の食事摂取基準 (2015 年版)
4	栄養素の働き(1) 糖質
5	栄養素の働き(2) タンパク質
6	栄養素の働き(3) 脂質
7	栄養素の働き(4) ビタミン
8	栄養素の働き(5) ミネラル・水・食物繊維
9	食生活と健康(1)国民の健康と栄養の現状 ① 食生活の変換と疾病構造の変化 ②国民栄養の現状と課題
10	食生活と健康(2)望ましい食生活 ① 国民健康づくりにおける食生活改善の取り組み ②食事環境③食事計画
11	食生活と健康(3)ライフステージ別の栄養と調理 ①成長期 ②成人期 ③高齢期
12	食べ物と健康 ①食品の成分と分類 ②食べ物の物性
13	グループワーク「健康増進を目指した歯科衛生士の役割・多職種連携」・まとめの作表
14	グループワークのまとめ発表(各班)・質疑応答

15	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 2 栄養と代謝」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「新ビジュアル食品成分表」大修館書店
備考	

20

科目名	口腔衛生学		担当	八木 稔			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	前期	単位数	2単位	評価法 ・試験 ・受講態度
時期			授業形態	講義	時間数	30時間	
					授業回数	15回	
授業の概要	口腔の健康に影響を及ぼす種々の要因について基礎的な知識を習得した上で、う蝕や歯周病など様々な口腔疾患の予防法について習得する。さらに、自らの歯と口腔の健康を把握して、歯と口腔の健康づくりについて学ぶ。歯科衛生士として人々の歯と口腔の健康づくりを支援するための基礎と方策について学習する。また、口腔衛生学の知識は、専門分野の歯科予防処置や歯科保健指導の基礎知識となることを理解する。						
到達目標	口腔の健康に影響を及ぼす種々の要因及び口腔疾患の予防法について理解する。						
回	授業計画						
1	口腔衛生学総論（1）：歯・口腔の健康（定義、予防の意義、保持増進のための手段）						
2	口腔衛生学総論（2）：歯・口腔の構造と機能（構造、発生と成長・発育、機能、全身の健康）						
3	歯・口腔の付着物・沈着物：ペリクル、プラーク、マテリアルバ、歯石、舌苔、色素沈着物						
4	歯科疾患の疫学：う蝕、歯周疾患、およびその他の歯科疾患の疫学的な特性						
5	口腔清掃（1）：意義、口腔清掃法、人工的清掃法の分類と用具						
6	口腔清掃（2）：不適切な口腔清掃による為害作用、歯磨剤と洗口液・洗口剤						
7	う蝕の予防（1）：う蝕発生と進行のメカニズム、分類と症状、発生要因						
8	う蝕の予防（2）：う蝕活動性試験、う蝕の予防						
9	フッ化物によるう蝕予防（1）：わが国のフッ化物応用、フッ化物の一般性状と用語、人間生態系におけるフッ化物、フッ化物摂取量とその基準、フッ化物の代謝、フッ化物の毒性						
10	フッ化物によるう蝕予防（2）：フッ化物応用によるう蝕予防方法、フッ化物の予防のメカニズム						
11	歯周疾患の予防（1）：歯周疾患の症状と分類、発症機序、全身に与える影響						
12	歯周疾患の予防（2）：歯周疾患の予防手段と処置						
13	その他の疾患・異常の予防（1）：不正咬合の予防、口臭の予防						
14	その他の疾患・異常の予防（2）：その他の疾患・異常（歯の損耗、破折、外傷、顎関節症、口腔癌、着色歯・変色歯、口腔機能低下症、その他）の予防						
15	まとめ						

教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	「歯科衛生学シリーズ 歯周病学」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「新フッ化物ではじめるむし歯予防」筒井昭仁・八木 稔編、医歯薬出版株式会社
備考	随時、レポートを課し、小テストを行う。

21

科目名	衛生行政・社会福祉		担当	小山 歌子				
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	後期	単位数	1単位	評価法 定期試験を重視、加えて授業で課された提出物を評価	
			授業形態	講義	時間数	30時間		
					授業回数	15回 + 定期試験		
時期								
授業の概要	衛生行政・社会保障に関する一般的知識を習得し、業務を適正に実施できるよう必要な法規について理解し、暮らしを支える「費用と負担」のシステムについて理解する。							
到達目標	個人衛生、環境衛生、公害、母子保健、学校保健、地域保健、産業保健、食品衛生、精神衛生など様々な領域があり、その基本的な知識について理解する。また、これらの根幹となる医療の保障、所得保障等について理解する。							
回	授業計画							
1	社会保障制度 I	a. 社会保障とは、沿革、いま・これから						
2	社会保障制度 II	a. 社会保障の役割と機能・分類・給付と国民負担・ライフステージ別						
3	衛生行政 I	a. 衛生行政の目的 b. 衛生行政の沿革						

4	衛生行政 II	a. 衛生行政組織（国際/国/地方/保健所/市町村/地域）
5	衛生関連法 I	a. 法の意義・分類 b. 医師法・歯科医師法 c. 歯科衛生士法
6	衛生関連法 II	a. 医療に関連する法（医療法） b. 薬事に関連する法
7	衛生関連法 III	a. 地域保健に関連する法 b. 感染症関連法 c. 食品・食育関連法
8	保健医療の動向 I	a. 厚生関係統計調査 b. 国民の健康状態と受療状況
9	保健医療の動向 II	a. 医療施設 b. 医療関係者 c. 国民医療費
10	社会保険 I	a. 社会保険の沿革 b. 社会保険行政の組織 c. 医療保険制度と法
11	社会保険 II	a. 年金制度と法 b. 雇用保険・労働者保健と法 c. 介護保険と法
12	社会福祉 I	a. 社会福祉行政の組織 b. 生活保護制度と法
13	社会福祉 II	a. 児童・家庭福祉制度 b. 障がい者福祉制度 c. 高齢者福祉制度
14	保険医療の実務	a. 医療保険の仕組み b. 医療保険期間での実務
15	健康格差是正への道	「命の格差は止められるか（イチロー・カワチ）」の解説
16	評価	定期試験
教科書	「歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険」末高武彦著、医歯薬出版株式会社	
参考書		
備考		

科目名	関係法規	担当	葭原明弘
-----	------	----	------

年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	後期	単位数	1単位	評価法 ・試験 ・受講態度
			授業形態	講義	時間数	30時間	
	時期				授業回数	15回	
授業の概要	歯科衛生士を取り巻く法律を学び、社会背景を意識しての業務を理解するとともにストレスなく働くための法律を理解する。						
到達目標	近年の歯科衛生士を取り巻く諸事情はめまぐるしい、その中様々な法律を理解し、安全に安定的に国民に歯科医療を提供できる思考をもつ。						
回	授業計画						
1	1章 歯科衛生士と法律 ① はじめに ② 歯科衛生士法 1. 歯科衛生士法の成り立ち 2. 歯科衛生士法の目的						
2	1章 歯科衛生士と法律 ②-3. 歯科衛生士の定義と業務						
3	1章 歯科衛生士と法律 ②-4. 免許・歯科衛生士名簿, 登録・免許証の交付及び届出 ②-5. 相対的欠格事由						
4	1章 歯科衛生士と法律 ②-6. 免許の取消・業務停止及び再免許 ~ ②-10 その他の業務上の義務						
5	1章 歯科衛生士と法律 ③ 歯科医師法 ④ 歯科技工士法						
6	1章 歯科衛生士と法律 ⑤ 歯科口腔保健の推進に関する法律 ⑥ 医療法						
7	2章 医療関係職種 ① 歯科医療とかかわる医療関係者 ② 保健師助産師看護師法 ③ 診療放射線技師法						
8	2章 医療関係職種 ④ 言語聴覚士法 ⑤ 医師法 ⑥ 薬剤師法 ⑦その他の医療関係職種に係る法律						
9	3章 その他の関係法規 ① 薬事に関連する法規 ② 地域保健に関連する法規 1. 地域保健法						
10	3章 その他の関係法規 ②-2. 健康増進法 ~ ②-6. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 (精神保健福祉法) ③ その他の衛生法規						
11	4章 社会保障 ① 社会保障 ② 社会保険 ③ 医療保険 1. 医療制度改革 ~ 3. 健康保険法						
12	4章 社会保障 ③-4. 国民健康保険法等 ~ ③-6. 審査支払機関 ④ 介護保険						

13	4章 社会保障 ⑤ 年金保険 ⑥ 雇用保険と労働者災害補償保険 ⑦ 社会福祉
14	5章 医療の動向
15	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯科衛生士と法律・制度」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	
備考	

科目名	歯科臨床概論		担当	田巻 菜穂子 齋藤 慕子			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	前期	単位数	2単位	評価法
				後期			
時期			授業形態	講義	時間数	60時間	受講態度
				演習			
授業の概要	<p>人々のライフスタイルの変化とともに、保健・医療・福祉に対する要望も多様化し、歯科衛生士を取り巻く環境も変化しつつある中で、全身の健康と口腔の健康保持が認知され、ライフステージを通じた歯や口腔の健康づくりの重要性が求められている。歯科衛生士は保健・医療・福祉にかかわる業種である。本科目では歯科衛生学の定義と歯科衛生士の役割について理解し、また歯科保健医療の概念を知るとともに歯科衛生士の歴史、法的位置づけ、心構えを理解する。</p>						

<p>到達目標</p>	<p>保健・医療・福祉に関わる意義と歯科衛生士の役割、対象となる人々のニーズの把握の仕方、歯科衛生士業務の考え方や行動の仕方を理解する。</p>
<p>回</p>	<p>授業計画</p>
<p>1</p>	<p>歯科衛生学とは</p>
<p>2</p>	<p>歯科衛生の歴史</p>
<p>3</p>	<p>歯科衛生活動のための理論</p>
<p>4</p>	<p>歯科衛生過程 1</p>
<p>5</p>	<p>歯科衛生過程 2</p>
<p>6</p>	<p>歯科衛生士法と歯科衛生業務 1</p>
<p>7</p>	<p>歯科衛生士法と歯科衛生業務 2</p>
<p>8</p>	<p>歯科衛生士と医療倫理 1</p>
<p>9</p>	<p>歯科衛生士と医療倫理 2</p>
<p>10</p>	<p>歯科衛生士の活動と組織 1</p>
<p>11</p>	<p>歯科衛生士の活動と組織 2</p>
<p>12</p>	<p>海外における歯科衛生士</p>
<p>13</p>	<p>歯科診療の流れ 1</p>
<p>14</p>	<p>歯科診療の流れと歯科衛生士の関わり</p>
<p>15</p>	<p>口腔疾患と歯科専門各科 1</p>
<p>16</p>	<p>口腔疾患と歯科専門各科 2</p>
<p>17</p>	<p>口腔疾患と歯科専門各科 3</p>
<p>18</p>	<p>口腔疾患と歯科専門各科 4</p>

19	口腔疾患と歯科専門各科 5
20	口腔疾患と歯科専門各科 6
21	口腔疾患と歯科専門各科 7
22	口腔疾患と歯科専門各科 8
23	口腔疾患と歯科専門各科 9
24	口腔疾患と歯科専門各科 10
25	口腔疾患と歯科専門各科 11
26	口腔疾患と歯科専門各科 12
27	口腔疾患と歯科専門各科 13
28	医療人として
29	臨床実習の心構え
30	まとめ
教科書	「歯科衛生士のための歯科臨床概論」医歯薬出版株式会社
参考書	「歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「歯科臨床の基礎と概論」クインテッセンス出版株式会社
備考	

科目名	歯科予防処置 1 (基礎知識・基本技術)		担当	生野美絵			
年次 時期	歯科衛生士学科	1 年	開講 時期	前 期 (1,3 年) 後 期 (1,2 年)	単位数	4 単位	評価法 ・筆記試験 ・実技試験 ・授業貢献 度
		2 年	授業 形態	講義 演習	時間数	120 時間	
		3 年		授業回数	60 回		

授業の概要	<p>歯周病予防法と齲蝕予防法の基礎知識と基本技術を学ぶ。歯周組織の健康像と病的変化を把握する。</p> <p>その手技としての各検査法、スケーリング、PMTC の技術を顎模型上で身につける。また、健康と QOL に関わりのある口腔保健管理の理論を学ぶ。予防的歯石除去法の基礎知識を学び、それに用いる器具・器材の使用法と手技を理解する。また、口腔観察の基本について学ぶ。齲蝕の原因及び齲蝕予防法を理解し、基礎的知識を習得する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周病予防法の基礎知識を理解し、基本的な技術を習得する。 2. 齲蝕の原因とその予防法を理解し、その知識と技術を習得する。
回	授業計画
1	1.歯科予防処置法とは 2.口腔の基礎知識
2	歯周病の基礎知識Ⅰ（口腔内の付着物・沈着物）
3	齲蝕の基礎知識①（齲蝕はどのようにできるのか？）
4	齲蝕の基礎知識②（齲蝕を予防するには？）
5	歯周病の基礎知識Ⅱ（歯周病の分類と原因）
6	齲蝕活動性試験①（各種検査方法について①）（講義・実習）
7	齲蝕活動性試験②（実習）（各種検査方法について②・まとめ）
8	歯周組織検査（基礎知識と器材の取り扱い、顎模型実習）
9	歯周組織検査実習①（ファントム使用）
10	歯周組織検査実習②（ファントム使用）
11	実技試験 歯周組織検査（顎模型）
12	スケーリングの基礎知識（1.スケーリングとは 2.スケーリングに用いる器具器材 3.ミラーテクニック）

13	スケーリングの基礎知識 (1.スケーリングとは 2.スケーリングに用いる器具器材 3.ミラーテクニック)
14	スケーリング実習 (ファントム使用)
15	中間評価
16	シックルタイプスケーラー実習 (ファントム使用) (スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング) 21～27 番 歯、11～17 番歯
17	シックルタイプスケーラー実習 (ファントム使用) (スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング) 41～47 番 歯、31～37 番歯
18	歯面研磨 (基礎知識と顎模型操作)
19	超音波スケーラーについて (基礎知識と顎模型操作)
20	超音波スケーラー実習 (ファントム使用) 26
21	歯周組織検査実習 (相互実習)
22	シックルタイプスケーラー相互実習 (術式説明、留意点) 13～23 番歯①②
23	シックルタイプスケーラー相互実習 31～37 番歯①②
24	シックルタイプスケーラー相互実習 41～47 番歯①②
25	シックルタイプスケーラー相互実習 14～17 番歯、24～27 番歯①
26	シックルタイプスケーラー相互実習 14～17 番歯、24～27 番歯②
27	超音波スケーラー相互実習①
28	超音波スケーラー相互実習②
29	超音波スケーラー相互実習③

30	中間評価
31	キュレットスケーラーについて（基礎知識・顎模型上での実習）
32	キュレットスケーラー実習（ファントム使用）
33	キュレットスケーラー相互実習 13～23 番歯①②
34	キュレットスケーラー相互実習 13～23 番歯③、33～43 番歯①
35	キュレットスケーラー相互実習 33～43 番歯②③
36	キュレットスケーラー相互実習 34～38 番歯①②
37	キュレットスケーラー相互実習 34～38 番歯③、44～48 番歯①
38	キュレットスケーラー相互実習 44～48 番歯②③
39	キュレットスケーラー相互実習 24～28 番歯①②
40	キュレットスケーラー相互実習 24～28 番歯③、14～18 番歯①
41	キュレットスケーラー相互実習 14～18 番歯②③
42	歯面清掃器について（エアフロー）
43	エアフロー相互実習①
44	エアフロー相互実習②
45	中間評価
46	フッ化物溶液歯面塗布法について（基礎知識）
47	フッ化物溶液ゲル歯面塗布法 実習手順説明（相互実習）
48	フッ化物溶液ゲル歯面塗布法（相互実習）
49	フッ化物フォーム応用時の使用量確認 実習手順説明（相互実習）
50	フッ化物フォーム応用時の使用量確認（相互実習）

51	小窩裂溝填塞法 実習手順説明（ファントム使用）
52	小窩裂溝填塞法（ファントム使用）
53	手用スケーラーのシャープニング法（シッケルスケーラー）
54	手用スケーラーのシャープニング法（キュレットスケーラー）
55	各種器材によるスケーリング（相互実習）①
56	各種器材によるスケーリング（相互実習）②
57	各種器材によるスケーリング（相互実習）③
58	各種器材によるスケーリング（相互実習）④
59	各種器材によるスケーリング（相互実習）⑤
60	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬 27 出版株式会社
参考書	
備考	

科目名	歯科予防処置演習 2 (臨床前期)		担当	生野美絵			
年次	歯科衛生士学科	1 学年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価法 ・実技試験 ・授業貢献 度
時期			授業形態	講義 演習	時間数	30 時間	
					授業回数	15 回	
授業の概要	<p>歯周病予防法と齲蝕予防法の基礎知識と基本技術を学ぶ。歯周組織の健康像と病的変化を把握する。</p> <p>その手技としての各検査法、スケーリング、PMTC の技術を顎模型上で身につける。また健康と QOL に関わり</p>						

	<p>のある口腔保健管理の理論を学ぶ。予防的歯石除去法の基礎知識を学び、それに用いる器具・器材の使用法と手技を理解する。また、口腔観察の基本について学ぶ。齲蝕の原因及び齲蝕予防法を理解し、基礎的知識を習得する。</p>
到達目標	<p>1. 歯周病予防法の基礎知識を理解し、基本的な技術を習得する。</p> <p>2. 齲蝕の原因とその予防法を理解し、その技術を習得する。</p>
回	授業計画
1	1.歯科予防処置法とは 2.口腔の基礎知識
2	歯周病の基礎知識Ⅰ（口腔内の付着物・沈着物）
3	齲蝕の基礎知識①（齲蝕はどのようにできるのか？）
4	齲蝕の基礎知識②（齲蝕を予防するには？）
5	歯周病の基礎知識Ⅱ（歯周病の分類と原因）
6	齲蝕活動性試験①（各種検査方法について①）（講義・実習）
7	齲蝕活動性試験②（実習）（各種検査方法について②・まとめ）
8	歯周組織検査（基礎知識と器材の取り扱い、顎模型実習）
9	歯周組織検査実習①（ファントム使用）
10	歯周組織検査実習②（ファントム使用）
11	実技試験 歯周組織検査（顎模型）
12	スケーリングの基礎知識（1.スケーリングとは 2.スケーリングに用いる器具器材）
13	シクルタイプスケーラー顎模型実習（スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング）
14	シクルタイプスケーラー顎模型実習（スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング）
15	まとめ

教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社「歯科衛生士のための齲蝕予防処置法」中垣晴男著、医歯薬出版株式会社
参考書	
備考	

29

科目名	歯科予防処置演習 3 (臨床後期)		担当	生野美絵			
年次	歯科衛生士学科	1 学年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価法 ・実技試験 ・授業貢献 度
			授業形態	演習 講義	時間数	30 時間	
時期					授業回数	15 回	
授業の概要	<p>歯周病予防法を理解し歯周組織の健康像と病的変化を把握する。その手技としての各検査法、スクーリング、PMTC の技術を相互実習または顎模型を使用して身につける。また、健康と QOL にかかわりのある口腔保健管理の理論を習得する。「歯科予防処置演習 I (基礎知識・基本技術)」で学んだ知識と技術を踏まえ、相互実習で実際に口の中での技術を学ぶ。加えて、口腔観察や歯周病の継続管理の方法を習得する。さらに「歯科予防処置演習 I (基礎知識・基本技術)」で学んだ齲蝕及び齲蝕予防法の知識を基に、顎模型上での演習を通しその技術を習得する。</p>						
到達目標	<p>①齲蝕予防の基本知識をもとにフッ化物による齲蝕予防法を実施できる。</p> <p>②歯周組織の健康像と病的変化を把握し、歯周組織検査、スクーリングを実践できる。</p>						

回	授業計画
1	シックルスケーラーマネキン実習 ①
2	シックルスケーラーマネキン実習 ②
3	超音波スケーラーについて (講義)
4	超音波スケーラーマネキン実習①
5	超音波スケーラーマネキン実習②
6	歯周組織検査相互実習①
7	歯周組織検査相互実習②
8	シックルスケーラー相互実習①
9	シックルスケーラー相互実習②
10	シックルスケーラー相互実習③
11	超音波スケーラー相互実習①
12	超音波スケーラー相互実習②
13	フッ化物について(講義)
14	フッ化物について(実習) フッ素塗布法
15	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	
備考	

科目名	歯科保健指導演習 1		担当	筒井 紀子			
年次	歯科衛生士学科	1 学年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価法 ・記述試験 ・実技試験
	時期			授業形態	演習 講義	時間数	
					授業回数	15 回	
授業の概要	<p>歯科保健指導は個人を対象として、その人の生活行動をその人に適した歯科保健行動に変容させることを目的とする分野であり、そのためには専門的な立場からの指導・支援を行うことが必要とされる。したがって保健指導は、歯科衛生士にとって主要な業務の一つである。</p> <p>本実習では、保健指導に必要な観察、対象把握、伝達に関する知識・技術・態度を修得する。</p>						
到達目標	<p>歯科衛生士として人々の健康増進を指導・支援するために、自己および対象者にたいして応用できる歯科保健指導の知識、技術、態度を習得する。</p>						
回	授業計画						
①	健康の概念（口腔・全身の健康）およびヘルスプロモーションに関する基礎知識						
②	口腔観察（歯・歯肉・粘膜・舌）の基礎知識および記録						
③	歯ブラシの基礎知識（各種ブラッシング法の特徴・用途・適応・操作法）						
④	歯ブラシ以外の清掃用具（補助用具）の基礎知識（特徴・用途・適応・操作法）①						
⑤	歯ブラシ以外の清掃用具（補助用具）の基礎知識（特徴・用途・適応・操作法）②						
⑥	歯垢染色相互実習①						
⑦	歯垢染色相互実習②						

⑧	口腔衛生状態の指数（PCR、OHI、OHI-S）の基礎知識（特徴、算出方法）
⑨	プレゼンテーション・グループディスカッション（歯ブラシについて）
⑩	プレゼンテーション・グループディスカッション（補助用具について）
⑪	歯磨剤に関する基礎知識（日本歯磨工業会）
⑫	医療面接の基礎知識
⑬	医療面接ロールプレイ・グループディスカッション
⑭	口腔清掃方法の説明・指導の基礎知識
⑮	ブラッシング法の説明・指導ロールプレイ・グループディスカッション
	終講試験
教科書	歯科衛生学シリーズ（医歯薬出版） 歯科予防処置論・歯科保健指導論
参考書	歯科衛生学シリーズ（医歯薬出版） 保健生態学 でんたるこみゆにけーしょん－歯科医療面接総論－（学建書院）
備考	

科目名	歯科診療補助法		担当	田巻 菜穂子			
年次	歯科衛生士学科	1 学年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価法
				後期			・試験
時期			授業形態	講義	時間数	60 時間	・受講態度

					授業回数	30回	
授業の概要	<p>歯科衛生士法における歯科診療補助業務の位置づけを理解する。また、歯科診療補助と介助の違いを理解し、歯科診療における治療の概要、それにおける基礎知識、基礎技術を習得する。また、歯科材料学においては、材料のコンシステンシーと操作方法を理解し、歯科材料の科学的基礎知識というハード面と人間性というソフト面を併せもち、歯科材料学の基礎知識及び基礎技術を習得する。基礎技術においては顎模型、マネキンを用いて習得する。</p>						
到達目標	<p>歯科診療補助及び歯科材料に関する知識を学び、その基本的実技に習熟し、臨床の場に十分対応し得る能力を習得する。</p>						
回	授業計画						
1	歯科診療補助論／歯科診療室の基礎知識						
2	歯科診療所における患者対応の基本						
3	医療安全と感染予防						
4	手指衛生（手指消毒）						
5	滅菌と消毒						
6	歯科器材・機器の種類と特性						
7	歯科材料の基礎知識						
8	歯科衛生にかかわる材料						
9	合着材・接着材						
10	合着の補助						
11	仮封材						
12	仮封・仮着の補助						

13	模型用材料
14	歯科用石膏の検討実習
15	歯科用石膏の取り扱い
16	中間テスト
17	歯科機器（検査・診断・治療用機器）①
18	歯科機器（検査・診断・治療用機器）②
19	歯科臨床と診療補助 ①保存修復時の診療補助
20	歯科臨床と診療補助 ②歯内療法時の診療補助
21	歯科臨床と診療補助 ③歯周外科治療の診療補助
22	歯科臨床と診療補助 ④補綴治療時の診療補助
23	歯科臨床と診療補助 ⑤口腔外科治療時の診療補助
24	歯科臨床と診療補助 ⑥歯科麻酔時の診療補助
25	歯科臨床と診療補助 ⑦矯正治療時の診療補助
	32
26	歯科臨床と診療補助 ⑧小児歯科治療時の診療補助
27	主な全身疾患とその対応
28	周術期における歯科診療の補助
29	歯科訪問診療における対応
30	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「歯科衛生学シリーズ 歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「歯科衛生学シリーズ 歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社

参考書	
備考	

科目名	歯科診療補助演習 1 (基礎知識・基本技術)		担当	田巻 菜穂子			
年次	歯科衛生士学科	1 学年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価法

時期			授業形態	講義	時間数	30 時間	・実技試験
				演習	授業回数	15 回	・自己評価
授業の概要	<p>歯科診療補助及び介助業務における治療の概要、それに伴う診療補助の基本的知識と技術を習得する。</p> <p>また、歯科材料の用途、取扱い方法、使用器材及び材料の特徴を十分に理解した上で手技を習得する。</p> <p>基礎技術においては、顎模型・マネキン・相互実習の段階を経て学ぶ。</p>						
到達目標	<p>歯科診療補助及び歯科材料に関する知識を学び、その基本的実技に習熟し、臨床の場に十分対応し得る能力を習得する。</p>						
回	授業計画						
1	手指消毒およびスタンダードプリコーションの実践						
2	バキュームテクニック						
3	バキュームテクニックの実践（マネキン実習）						
4	口腔内洗浄による共同動作（相互実習）①						
5	口腔内洗浄による共同動作（相互実習）②						
6	印象材／アルジネート印象						
7	寒天・アルジネート連合印象採得（マネキン実習）①						
8	寒天・アルジネート連合印象採得（マネキン実習）②						
9	寒天・アルジネート連合印象採得（相互実習）①						
10	寒天・アルジネート連合印象採得（相互実習）②						
11	歯科用石膏練和・注入						
12	合着材の取り扱い、練和						
13	仮封材、仮着材の取り扱い、練和						

14	ゴム質印象材の取り扱い(マネキン実習)①
15	ゴム質印象材の取り扱い(マネキン実習)②
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「歯科衛生学シリーズ 歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「歯科衛生学シリーズ 歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	
備考	

科目名	臨床検査法		担当	田巻 菜穂子			
年次	歯科衛生士学科	1 学年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価法 ・筆記試験 ・受講態度
時期			授業形態	講義	時間数	20 時間	
				演習	授業回数	10 回	
授業の概要	<p>歯科衛生士として臨床検査の目的並びにその検査内容における方法、手順を学び、正常数値・異常数値を理解する。また、全身疾患をもつ患者への歯科治療時の留意点を理解することで臨床の場において患者説明が的確にできる知識と技術を習得する。さらに、口腔領域の臨床検査であるう蝕活動性試験の具体的目的や検査方法を理解し、歯科保健指導や管理の指針を設定できる応用技術を習得する。</p>						
到達目標	臨床検査の基礎知識を学び、各種検査法とその正常値・異常値から患者の身体症状を理解する。						

回	授業計画
1	1章 臨床検査とは 臨床検査の概要について 臨床検査の種類、臨床検査と歯科衛生士の役割について
2	2章 生体検査について 生体検査（生理機能検査）について
3	生体検査（各種測定実習）
4	3章 検体検査について
5	4章 口腔領域の臨床検査
6	口腔領域の臨床検査（各種検査実習①）
7	口腔領域の臨床検査（各種検査実習②）
8	5章 摂食・嚥下関連の検査
9	主な疾患、病態別検査値のとらえ方
10	歯科エックス線撮影（画像検査）
教科書	「歯科衛生学シリーズ 臨床検査」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	
備考	

科目名	臨地実習 1		担当	齋藤慕子			
年次	歯科衛生士学科	1 学年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価法
			授業形態	実習	時間数	45 時間	
時期					実習日数	7 日	レポート
授業の概要	<p>高齢者の身体的・心理的特徴を理解し、QOL の向上と口腔機能の向上に必要な口腔ケアの技能、歯科医療での歯科衛生士の役割を理解する。老人介護施設実習では、公衆衛生活動における高齢者福祉施設の役割を理解するとともに、高齢者の口腔ケアの目的を理解し、援助できる技術を習得する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問介護の必要性を理解する。 2) 高齢者と家族、職員とのコミュニケーションを図る。 3) 訪問看護と介護施設の現実を知り歯科衛生士の役割を理解する。 4) 訪問看護に必要な器材、用具を理解する。 						
回	授業計画						
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護ステーション：9 月～12 月 (4 日間) 9：00～16：00 6 時間 2) 老人看護施設 : 9 月～12 月 (3 日間) 9：00～17：00 7 時間 2. 実習の目的 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護ステーション：訪問看護に同行して現在の高齢者社会の実態を知る。 多職種との連携の必要性を知る。 2) 老人介護施設 : 介護施設で利用者と日中ともに過ごして高齢者の生態を 						

	<p>理解し、職員のコミュニケーション法を見て学ぶ。</p> <p>3. 実習計画</p> <p>1) 訪問看護ステーション：2名ずつ訪問看護に同行する。</p> <p>2) 老人介護施設 ：2～5名ずつ高齢者の日常を見学し、施設職員の業務を知る。</p>
備考	実習終了後、実習報告会を実施する。 振り返り後、評価の総括を行う。

科目名	接遇・マナー		担当	佐々木由美子			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法
			授業形態	講義	時間数	20時間	
時期				演習	授業回数	10回	・実技試験
							・受講態度
授業の概要	社会人としての自己管理能力、職場での人間関係を築く能力、仕事をする上での自己判断力、ふさわしい						

	言葉遣い、身だしなみ、立ち居振る舞いといったセンスを身につける。
到達目標	患者さんに気持ちよく治療を受けていただくとともに、他職種の方と円滑に業務を行えるようにする。
回	授業計画
1	病院接遇の基本 接遇が求められる理由 身だしなみと基本動作
2	人間関係と話し方・聞き方 話し方の基本知識、効果的な話し方、敬語の用法、接遇用語
3	敬語の用法
4	話し方・聞き方の応用 真意をつかむ聞き方 報告の仕方 注意・忠告の受け方 苦情処理
5	注意・忠告の受け方 苦情処理
6	電話対応の基本 電話対応の実際 メモのとりかた
7	高齢者への接し方 知っておくと便利なマナー（エレベーターの乗り降りなど・・・）
8	ロールプレイング
9	ケーススタディ
10	まとめ
11	
12	
13	
14	
15	
教科書	実践ビジネスマナー ウィネット 歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション ウィネット
参考書	

備考	
----	--

科目名	カラーコーディネート	担当	坂上 浩司			
年次	歯科衛生士学科	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価法 課題、試験
	1 年	授業形態	講義・演習	時間数	20 時間	
時期				授業回数	10 回	
授業の概要	テキストとカラーカードを使って色彩の特性を理解する。『理想とする歯科医院の色彩計画』をテーマにグループワークで取り組み、検討・まとめ・発表を体現し、教育成果とする。					
到達目標	色彩士検定 3 級対策テキストに準じた色彩知識の獲得。テキスト内の演習課題の完成。グループワーク内で各個人が役割を持ち、成果物としてまとめ、グループ発表に貢献する。					
回	授業計画					
1	オリエンテーション / 第 1 章 色のなりたち					
2	第 2 章 混色 / 第 3 章 色の表示方法					
3	演習課題 色の知覚的効果 / 対比効果の体験 色の心理的効果 / 色の持つイメージ					
4	第 4 章 色の知覚的効果					
5	第 5 章 色の心理的効果					

6	【講義】色彩計画に基づく歯科医院・医療機関の現状 グループワークオリエンテーション
7	グループワーク『理想とする歯科医院の色彩計画』①
8	グループワーク『理想とする歯科医院の色彩計画』②
9	グループワーク『理想とする歯科医院の色彩計画』発表
10	まとめと振り返り
教科書	COLOR MASTER BASIC【 NPO 法人アデック出版局 編集 】 テキスト配色演習「新配色カード 199a」
参考書	
備考	

科目名	キャリアデザイン		担当	星野 順也			
年次	歯科衛生士学科	1 学年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価法
			授業形態	講義	時間数	20 時間	
時期				演習	授業回数	10 回	受講態度

授業の概要	<p>「キャリアデザイン」とは、自分の職業人生を自らの手で主体的に構想・設計＝デザインすることです。自分の経験やスキル、性格、ライフスタイルなどを考慮した上で、実際の労働市場の状況なども勘案しながら、仕事を通じて実現したい将来像やそれに近づくプロセスを明確にすることを学びます。</p>
到達目標	<p>社会人として医療人として歯科衛生士としての自分の目標を明確にする。</p>
回	授業計画
1	<p>ライフデザインナビ 自己発見検査</p>
2	<p>実践行動学(part.1)</p>
3	<p>実践行動学(part.1)</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアとは何か ・就きたい仕事、どんな働き方、資格の効果
5	<p>自分について何を知っているか、自分史を作る</p>
6	<p>自分の強み、専門学校生活の作り方</p>
7	<p>学校生活でのキャリアアクションプラン</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩のキャリア紹介 ・身近な家族や親せきのキャリアについて調べる ・キャリアデザインを阻害（＝キャリア形成）するもの
9	<ul style="list-style-type: none"> ・いかだ下り型と山登り型 ・人生 100 年時代の働き方
10	<p>まとめ</p>
教科書	<p>適宜プリントを配布、実践行動学テキスト</p>

三条看護・医療・歯科衛生専門学校

2023 年度
歯科衛生士学科

第2学年（3期生）
シラバス

名簿番号 氏名

三条看護・医療・歯科衛生専門学校（HOSP!）のポリシー

〈 教育の基本理念・建学の精神 〉

高い専門能力を追求しながらも、単に知識・技術教育に偏ることなく、広い視野と豊かな人間性を持った、創造性に満ちた人材の育成を通じ、地域医療に貢献することで、地域の課題に寄与していく。

〈 教育方針 〉

目的：現代社会・地域において求められている医療系人材の育成

「専門性・人間性・創造性」と共に、社会的常識・基本マナー、高いコミュニケーション能力、明るく健康的で建設的な意志等を兼ね備えた、地域の医療現場で貢献し続けることができる専門職業人を育成。

アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針） **全学科共通**

1. 相手の気持ちに配慮し、自分の思いを伝えるコミュニケーションができる人
2. 命の大切さを考え、優しい行動がとれる人
3. 物事になぜという疑問を持ち、考えようとする人
4. 他者と協調し、チーム連携、協働ができる人
5. 学び続ける意欲がある人

カリキュラムポリシー（教育課程編成方針） **歯科衛生士学科**

《人間力・教養の涵養*（かんよう）》*自然にしみこむように養成すること

多角的視点で理解できる力を養うために、専門科目以外に人間関係論、倫理学をはじめ基礎的な教養科目を配置する。更に、人間力育成のために接遇・マナーの科目を入学後早期に配置する。

《専門力・チーム協働力》

自ら考え、自ら学習する力を養うために、能動型の授業・実習を実施する。保健・医療・福祉チームの一員としての認識を深めるために、多様な場での臨地実習（歯科医院・高齢者施設・訪問看護・教育機関等での実習）を配置する。

《自己研鑽》

社会の変化に対応した専門職として学び続ける姿勢を身につけるために、目的・目標を意識した学習活動を実践する。更に、国家試験合格に向けた計画実践検証型の学習方法を実施する。

ディプロマポリシー（卒業認定・人材育成方針） **歯科衛生士学科**

1. 人間を尊重し、感性豊かな人間性を身につけている。
2. 対象者個々の健康を自然、社会、文化的環境など全体的な視点から見ることができ理解できる能力を身につけている。
3. 対象者の持つ問題を解決する点をアプローチできる基礎的能力を身につけている。
4. 保健、医療、福祉チームの一員としての役割を担うことができる。
5. 口腔衛生の本質を理解して、自らの口腔衛生に対する考えを明確にすることができる。

歯科衛生士学科 第2学年 授業科目一覧

区分	教育内容	科目	前期	後期	ページ
専門 基礎 分野	歯・口腔の健康 と予防に関わる 人間と社会の 仕組み	公衆衛生	✓		1
		保健情報統計学	✓		2
専門 分野	臨床歯科医学	保存修復学	✓		3
		歯内療法学	✓		4
		歯周病学	✓		5
		歯科補綴学	✓		6
		口腔外科学	✓		7
		歯科矯正学	✓		8
		小児歯科学	✓		9
		障がい・高齢者歯科学	✓		10-11
	歯科予防処置論	歯科予防処置1（基礎知識・基本技術）		✓	12-14
		歯科予防処置演習5		✓	15
	歯科保健指導論	歯科保健指導論	✓	✓	16-17
		歯科保健指導演習2	✓		18
		歯科保健指導演習3		✓	19
	歯科診療補助論	歯科診療補助演習2	✓		20
		歯科診療補助演習3		✓	21
		感染予防法	✓		22
臨地実習	臨地実習2	✓	✓	23-24	
選択 必修 分野	医療事務・電子カルテ操作			✓	25
	東洋医学概論	✓			26
	最先端歯科			✓	27

＜留意事項＞

1. 授業の日程や内容等に変更が生じる場合あり（感染症の拡大状況や災害等による）。
2. 授業に関する連絡は、口頭もしくは push 通知でお知らせするため、毎日複数回 push 通知を確認すること。

科目名	公衆衛生		担当	佐藤 浩二			
年次	歯科衛生士学科	2年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法 ・試験 ・受講態度
			授業形態	講義	時間数	30時間	
時期					授業回数	15回	
授業の概要	<p>衛生学は主に個人の健康に関わる学問である。一方、公衆衛生学は、衛生学という基礎の上に成り立っている社会医学の一分野である。すなわち本科目は、従来個人及び公衆の健康維持・向上、疾病予防などを目的としていたが、現在では遺伝・伝染病・環境・社会的要因など、様々な要因が人間に及ぼす影響、多彩な健康問題を社会全体の問題として捉え、その問題解決・改善を目指す学問領域となっている。個人衛生、環境衛生・公害・母子保健・学校保健・地域保健・産業保健・食品衛生・精神衛生など様々な領域があり、その基本的な知識について学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての人々の暮らしと健康を守る、公衆衛生について理解する。 ・個人と集団の健康に影響を及ぼす環境要因を理解する 						
回	授業計画						
1	総論 1 ①衛生学・公衆衛生学とは ②健康の概念（健康とは、生活習慣と健康、プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション、健康日本21）						
2	総論 2 ③予防医学の概念（第一次予防、第二次予防、第三次予防）						
3	疫学 1 ①疫学の定義および概要（疫学とは、疾病や異常の発生要因、疾病の発生・流行状態を表す指標）						
4	疫学 2 ②疫学の方法（記述疫学、分析疫学、介入研究）						
5	人口 1 ①人口静態統計（世界の人口、わが国の人口）						
6	人口 2 ②人口動態統計（出生・死亡・婚姻と離婚に関する統計）						
7	人口 3 ③生命表（生命表とは、日本人の平均寿命と三大死因）						
8	環境と健康 1 ①環境の概念 ②空気・水と健康						
9	環境と健康 2 ③放射線と健康 ④住居・衣服と健康 ⑤地球環境の変化と健康への影響（地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊など）						
10	環境と健康 3 ⑥公害と健康への影響（大気・水・土壌の汚染、騒音、悪臭） ⑦廃棄物処理（一般廃棄物、産業廃棄物、感染性廃棄物）						
11	感染症 1 ①感染症の成り立ち（感染と発病、感染成立の三要因、感染症の流行）						
12	感染症 2 ②感染症の予防（感染症予防の基本概念、感染症対策上の問題点、わが国における感染症対策） ③主な感染症の動向						
13	食品と健康 1 ①食品保健（食中毒の疫学、食中毒の分類、食品の安全性確保）						
14	食品と健康 2 ②栄養と健康（日本人の食事摂取基準、国民栄養の現状と問題点、健康づくりのための食生活指針と「食育」の推進）						
15	まとめ						
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学」 医歯薬出版株式会社						
参考書							
備考							

科目名	保健情報統計学		担当	八木 稔			
年次	歯科衛生士学科	2年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法
			授業形態	講義	時間数	30時間	
時期					授業回数	15回	式試験による
授業の概要	現代の社会的なニーズにあった保健情報の考え方とその収集法などを含め、統計理論を学ぶ。						
到達目標	保健衛生に関わる統計学の意義や手法について学び、科学的根拠に基づいた医療や健康づくりができるような知識と技術を習得する。また、社会環境の変化に対応した保健情報の考え方や取扱いについて学び、臨床の場面で応用することができるようになることが目標である。						
回	授業計画						
1	保健情報と保健統計：情報の表現、情報の保護と倫理						
2	保健情報と疫学（1）：疫学総論、健康障害の発生要因						
3	保健情報と疫学（2）：疫学の方法論、スクリーニング						
4	歯科疾患の指数（1）：う蝕の指数(1) う蝕の診断（検出）基準						
5	歯科疾患の指数（2）：う蝕の指数(2) う蝕の表現方法						
6	歯科疾患の指数（3）：歯周疾患の指数(1) PMA、GI、PI、PDI						
7	歯科疾患の指数（4）：歯周疾患の指数(2) GB Count、GPI、CPI						
8	歯科疾患の指数（5）：口腔清掃状態の指数(1) OHI、OHI-S、Plaque Index（Quigley & Hein）						
9	歯科疾患の指数（6）：口腔清掃状態の指数(2) Plaque Index（Silness & Loe）、PHP、PCR（O'Leary）						
10	歯科疾患の指数（7）：その他の指数 不正咬合、歯のフッ素症、その他歯の健康に関するもの						
11	保健統計の方法（1）：保健情報の収集、調査、母集団と標本						

12	保健統計の方法（2）：データの特徴(名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度)、記述統計、相関と相関係数
13	保健統計の方法（3）：推定と信頼区間、統計的な検定、多変量解析、因果関係
14	保健情報の分析演習：統計的な検定の具体例 t 検定、 χ^2 検定、相関係数の検定
15	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	保健統計・疫学（改訂6版），福富 和夫ほか，南山堂
備考	演習を行うことがあるので、電卓を準備すること。 予習のため、疫学・統計学の用語について検索して調べておくことが望ましい。 復習のため、小テストの結果を再履修し、課されたレポートを作成すること。

2

科目名	保存修復学		担当	野杵由一郎、外園真規			
年次	歯科衛生士学科	2年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法 ・試験 ・受講態度
時期			授業形態	講義	時間数	30時間	
					授業回数	15回	
授業の概要	保存修復学とは、う蝕などの硬組織疾患によって生じた欠損部の修復法やその材料について学ぶ学問である。古くはアマルガム修復法や金箔充填修復法があり、適合性や物性の改良を目指したインレー 修復法、さらに一回の処置で修復し、審美性も兼ね備えているコンポジットレジン修復法やグラスアionoマー修復法、審美性の回復を目指すラミネートベニア修復法など様々な方法及び材料がある。本科目では、保存修復学の基礎を学び、保存修復に関する診療補助の能力を習得する。						
到達目標	保存修復学の基礎を学び、保存修復に関する診療補助の能力を習得する						
回	授業計画						

1	総論：歯の保存療法と歯科保存学—対象となる疾患—
2	口腔検査—医療面接と硬組織疾患の診査法
3	保存修復学総論—硬組織疾患の種類と病態
4	う蝕原性微生物とバイオフィルム
5	う蝕の病態と保存修復治療の概要と準備
6	窩洞形成／歯髄の保護と保存修復の種類
7	直接法修復 ①コンポジットレジン修復
8	直接法修復 ②セメント修復と各種歯科用セメント
9	間接法修復 ①インレーおよびアンレー修復
10	間接法修復 ②セラミック／コンポジットレジンインレー修復
11	間接法修復 ③ベニア修復
12	合着材および接着剤
13	保存修復における衛生士の役割 ①診査・検査時の業務
14	保存修復における衛生士の役割 ②保存修復時の診療補助業務
15	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」全国歯科衛生士教育協議会監 修、医歯薬出版株式会社
参考書	「歯科衛生士のためのカリオロジー」医歯薬出版株式会社
備考	

科目名	歯内療法学		担当	奥田一博			
年次	歯科衛生士	2年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法
	学科		授業形態	講義	時間数	30時間	
時期					授業回数	15回	「到達目標」の達成度を評価する。

授業の概要	<p>歯内療法学とは、歯の硬組織・歯髄腔内・根尖周囲組織の疾病や傷害に対する診断、予防、治療に関する研究を行う臨床歯学の一分野である。本科目ではその基礎を学び、歯内療法に関する診療補助の能力を習得することを目的とする。最新の科学理論に基づいた歯と歯髄の疾患の治療法、最新の器機・材料・薬剤の特徴や使用方法についてその基礎を学ぶ。</p>
到達目標	<p>歯内療法学の基礎を学び、歯内療法に関する診療補助の能力を習得する</p>
回	授業計画
1	歯内療法の概要Ⅰ（歯科衛生学シリーズ P118-P123）
2	歯内療法の概要Ⅱ（歯科衛生学シリーズ P123-P125）
3	歯内療法の概要Ⅲ（歯科衛生学シリーズ P125-P131）
4	歯内療法の概要Ⅳ（歯科衛生学シリーズ P131-P137）
5	歯髄保存療法（歯科衛生学シリーズ P138-P147）
6	歯髄除去療法（歯科衛生学シリーズ P148-P155）
7	根管治療Ⅰ（歯科衛生学シリーズ P156-P166）
8	根管治療Ⅱ（歯科衛生学シリーズ P166-P178）
9	根管充填Ⅰ（歯科衛生学シリーズ P178-P185）
10	根管充填Ⅱ（歯科衛生学シリーズ P185-P192）
11	外科的歯内療法（歯科衛生学シリーズ P193-P203）
12	歯の外傷（歯科衛生学シリーズ P204-P208）
13	歯内療法における安全対策（歯科衛生学シリーズ P209-P213）
14	歯内療法における歯科衛生士の役割（歯科衛生学シリーズ P214-P217）
15	国家試験形式の演習

教科書	『歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	
備考	

4

科目名	歯周病学		担当	吉江 弘正			
年次	歯科衛生士学科	2年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法 ・試験
			授業形態	講義	時間数	30時間	
時期				演習	授業回数	15回	・受講態度
授業の概要	歯周疾患が全身状態に影響することが明らかとなり、高齢化社会を迎え、歯周疾患の治療と予防のニーズはますます高まっている。歯科衛生士として治療と予防に積極的に参加介入するために、歯周疾患と歯周療法に関する基礎知識を習得する。						
到達目標	歯周疾患とは何か、歯周疾患の分類及びプラークを主とする歯周疾患の原因について理解する。次に 歯周疾患の診査法を学び、プラーク付着診査、歯周ポケット測定、口腔内の写真読影、X線写真読影などに関し習得する。更に、歯周治療の流れ、歯周基本治療および歯周外科治療について、その内容と診療準備、介助などに関し歯科衛生士の果たす役割についても理解する。						
回	授業計画						
1	歯周組織の構造と機能						

2	歯周病の病因、分類、歯周医学
3	歯周治療の進め方
4	歯周検査と診断
5	プラークコントロール
6	スケーリング・ルートプレーニング
7	外科治療の基本知識
8	歯周再生治療
9	歯周形成外科、患者指導
10	根分岐部病変、歯周一歯内病変
11	咬合、矯正、補綴
12	インプラントの基本知識
13	メンテナンス・SPT
14	学生によるテーマ発表(term based learning)
15	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯周病学」全国歯科衛生士教育協議会監 修、医歯薬出版株式会社
参考書	
備考	

科目名	歯科補綴学		担当	山田浩之、依田洋明、田口裕哉			
年次	歯科衛生士学科	2年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法 ・試験
			授業形態	講義	時間数	30時間	
時期					授業回数	15回	・受講態度
授業の概要	<p>歯科補綴学の概要を理解する上で必要な基礎的事項を理解し、次いで専門的事項について、教科書を主体とし、提示された実物などを通して、歯冠補綴物、有床義歯、インプラントについての理解を深める。また近年特に注目されている、訪問診療、介護時に求められる義歯の調整法などの知識を習得する。</p>						
到達目標	歯科補綴診療に際して歯科衛生士に求められる必要な知識の習得						
回	授業計画						
1	補綴歯科治療の意義と目的、歯の欠損に伴う生理的变化						
2	補綴歯科治療の方法と補綴装置（1）						
3	補綴歯科治療の方法と補綴装置（2）補綴歯科治療における歯科衛生士の役割						
4	補綴歯科治療の基礎的知識（1）						
5	補綴歯科治療における検査						
6	クラウン・ブリッジ治療の実際と歯科衛生士の役割（1）						
7	クラウン・ブリッジ治療の実際と歯科衛生士の役割（2）						
8	クラウン・ブリッジ治療の実際と歯科衛生士の役割（3）						
9	全部床義歯治療の実際と歯科衛生士の役割（1）						
10	全部床義歯治療の実際と歯科衛生士の役割（2）						
11	部分床義歯治療の実際と歯科衛生士の役割（1）						
12	部分床義歯治療の実際と歯科衛生士の役割（2）						

13	インプラント治療の実際と歯科衛生士の役割
14	特殊な口腔内装置を用いる治療の実際と歯科衛生士の役割
15	補綴歯科治療における機材の管理- 訪問診療における補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割
教科書	「歯科衛生学シリーズ 咀嚼障害・咬合異常 1 歯科補綴第 2 版」 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	
備考	

6

科目名	口腔外科学		担当	新垣 晋				
	年次	歯科衛生士学科		2年	開講時期	前期	単位数	1単位
時期			授業形態	講義	時間数	30時間		
					授業回数	15回		
授業の概要	口腔・顎顔面領域における様々な疾患及び口腔に関連した全身疾患の病態・診断・治療について学習する。全身状態を考慮した歯科治療を介助する上で必要な知識・技術について学習する。全身状態の管理を含めた麻酔学と救急蘇生法について学習する。							
到達目標	口腔疾患と全身疾患の関係、消毒・滅菌・感染対策、多様な口腔外科疾患について説明できる。手術術							

	式を理解し必要な器材を準備し説明できる。麻酔法、全身偶発症の処置を説明できる。口腔外科診療での歯科衛生士の役割を説明できる。ただし各項目については、診療補助の範囲を考慮する。
回	授業計画
1	総論：口腔外科とは 口腔外科学における診査・検査・診断・治療
2	総論：全身疾患の理解 消毒と滅菌 感染対策
3	疾患各論：先天異常と発育異常 外傷
4	疾患各論：口腔粘膜疾患
5	疾患各論：炎症
6	疾患各論：嚢胞性疾患
7	疾患各論：腫瘍（良性腫瘍）
8	疾患各論：腫瘍（悪性腫瘍）
9	疾患各論：顎関節疾患 唾液腺疾患
10	疾患各論：唾液腺疾患 神経性疾患
11	小手術の実際とその介助：切開・縫合 止血処置 膿瘍切開 抜歯
12	小手術の実際とその介助：歯の脱臼・歯槽骨骨折 歯槽骨整形 歯根端切除 嚢胞摘出
13	小手術の実際とその介助：腫瘍摘出 小帯形成・切除 唾石摘出 口腔上顎洞瘻孔閉鎖 インプラントに関する処置
14	全身麻酔下手術の概要：口唇形成 顎骨形成 骨折 嚢胞 上顎洞根治 悪性腫瘍 唾液腺
15	麻酔と救急処置：局所麻酔 精神鎮静法 全身的偶発症の種類と対応 血液疾患
教科書	「歯科衛生士講座 口腔外科学 第2版」 古森孝秀 永末書店
参考書	新こんな患者さんが歯科に来たときは？ 古森孝秀 第一歯科出版

備考	
----	--

科目名	歯科矯正学		担当	齋藤 功、丹原 惇			
年次	歯科衛生士学科	2年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法
	時期			授業形態	講義	時間数	
				授業回数	15回	・試験 ・受講態度	
授業の概要	<p>頭部・顎・顔面部の成長発育とそれによって変化する歯列の変化を知り、その発育を阻害する因子を早期に取り除くことが不正咬合の予防につながることを理解する。さらに、患者に対する矯正歯科治療の必要性に関する啓発の在り方、不正咬合によってもたらされる障害、矯正装置の口腔衛生に与える影響などについては、歯科矯正学を解っていなければ解決できないことが多い。本科目は、不正咬合と実際の矯正歯科治療との関連づけができるように基礎的な知識を習得することを目的とするとともに、歯科矯正学の基礎を学び、矯正歯科治療に関する診療補助の方法を学ぶ。</p>						
到達目標	歯科矯正学の基礎を学び、矯正歯科治療に関する診療補助の能力を習得する						
回	授業計画						
1	矯正歯科治療の概要および正常咬合 1 →4/11・1 限						
2	正常咬合 2 および不正咬合 1 →4/18・1 限						
3	不正咬合 2 および不正咬合の原因 1 →4/18・2 限						
4	不正咬合の原因 2 および矯正歯科診断 1 →5/16・1 限						
5	矯正歯科診断 2 および矯正装置 1 →5/23・1 限						
6	矯正装置 2 および成長発育 1 →6/6・1 限						
7	成長発育 2 および矯正装置 3 →6/13・1 限						
8	矯正歯科治療と力 →6/20・1 限						
9	矯正歯科治療の基礎知識のまとめ 1 →6/27・1 限						
10	矯正歯科治療の基礎知識のまとめ 2 と問題解説 →7/4・1 限						
11	矯正歯科診断に係わる衛生士業務 1 →4/25・1 限						
12	矯正歯科診断に係わる衛生士業務 2 →5/9・1 限						
13	矯正歯科患者と口腔保健管理 →7/11・1 限						
14	口腔筋機能療法 →7/18・1 限						
15	矯正歯科用器具および文書の管理 →8/22・1 限						
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯科矯正」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社						

参考書	「歯科衛生士のための 最新用語辞典」 クインテッセンス出版株式会社
備考	↑ 上記日程【青字】齋藤 功、【赤字】丹原 惇

8

科目名	小児歯科学		担当	早崎治明・中村由紀			
年次 時期	歯科衛生士学科	2年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法
			授業形態	講義	時間数	30時間	・試験
					授業回数	15回	・受講態度
授業の概要	<p>口腔疾患の発病、進行時期として重要な小児期における歯科衛生士の役割を理解するとともに臨床の場で対応できるような能力の基礎を総合的に学ぶ。小児の心身の発達に伴う基本的知識や、小児の歯科疾患・予防法・診療補助等についての知識を習得する。</p>						
到達目標	<p>口腔疾患の発病、進行時期として重要な小児期における歯科衛生士としての役割を理解する。小児期の歯科医療について総合的に学ぶ</p>						
回	授業計画						
1	小児歯科学概論・心身の発育						
2	小児の生理的特徴・顔面頭蓋の発育						
3	歯の発育とその異常						
4	歯列咬合の発育と異常						
5	小児の歯科疾患・小児虐待						
6	小児期の特徴・小児歯科における患者との対応法(1)：患者との関係・小児の態度と行動						

7	小児歯科における患者との対応法(2)：歯科治療時の対応法
8	小児歯科における診療体系(1)：診療の特徴・治療の原則・診察・歯の健康教室
9	小児歯科における診療体系(2)：麻酔・歯冠修復
10	小児歯科における診療体系(3)：歯内療法
11	小児歯科における診療体系(4)：外科的処置・外傷・咬合誘導・リコール
12	小児歯科における歯科衛生士の役割：齲蝕予防(1)
13	小児歯科における歯科衛生士の役割：齲蝕予防(2)
14	小児歯科における歯科衛生士の役割：小児の口腔健康管理
15	小児歯科における歯科衛生士の役割：器材管理 総括
教科書	「歯科衛生学シリーズ 小児歯科 第2版」(一社)全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	
備考	

科目名	障がい・高齢者歯科		担当	大島邦子・中島 努 (障害者歯科)			
				木戸寿明・村松瑞人 (高齢者歯科)			
年次	歯科衛生士学科	2年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法

時期			授業形態	講義	時間数	30 時間	・試験
					授業回数	15 回	・受講態度
授業の概要	<p>(障がい者歯科)</p> <p>身体的、知的あるいは精神的な障害のある人を対象とした口腔保健管理のあり方を学ぶ。障害者の歯科治療では治療や指導及び患者管理に特別の配慮を必要とする。その際に必要な身体的、知的及び精神的特徴と特有の口腔機能障害について学ぶ。そして社会の一員である障害者の生活を知り、歯科衛生士としての適切な態度と行動を習得しつつ、障害者の歯科医療について総合的に学習する</p> <p>(高齢者歯科)</p> <p>高齢者について理解し、高齢者にかかわる歯科疾患についての診療補助の能力を習得する。高齢者は、顎口腔機能はもとより身体的機能も低下していることが多く、全身疾患を有し、身体状況に個人 差が大きいなどの特徴を有するため、それを踏まえた対応が必要となる。高齢者の歯科診療補助、保健指導を行うために必要な知識に関する講義を行う。</p>						
到達目標	<p>(障がい者歯科)</p> <p>① 障害児・者の身体的、知的および精神の特徴と歯科の特徴を理解し、 歯科保健医療の留意点を説明できる。</p> <p>② 障害児・者の摂食・嚥下障害とリハビリテーションについて説明できる。</p> <p>(高齢者歯科)</p> <p>高齢者の特性や社会的背景について理解し、高齢者に対して適切な口腔保健指導、歯科診療補助を行う際に必要な知識を習得する。</p>						
回	授業計画						
1	第 1 - 3 章 障害者歯科学総論						

2	第4章 障害の分類と特徴 1
3	第4章 障害の分類と特徴 2
4	第5章 障害者歯科の診療補助、第7章 行動調整
5	第8章 歯科保健指導
6	第10章 予防処置、第9章 機能訓練
7	第6章 医療安全、第11章 医療連携と福祉の連携、まとめ
8	第1章 高齢者を取り巻く社会
9	第2章 加齢の科学
10	第3章 高齢者における口腔領域の疾患
11	第3章 高齢者における口腔領域の疾患
12	第4章 全身状態の把握と対応、第5章 高齢者歯科医療の場
13	第6章 口腔衛生管理
14	第7章 摂食嚥下障害とリハビリテーション
15	第8章 介護保険における歯科衛生士の役割
	10
教科書	「歯科衛生士講座 高齢者歯科学 第2版」 永末書店 「歯科衛生士講座 障害者歯科学 第3版」 永末書店
参考書	
備考	

科目名	歯科予防処置 1 (基礎知識・基本技術)		担当	生野美絵			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講時期	前期 (1,3 年)	単位数	4単位	評価法 ・筆記試験
時期				後期 (1,2 年)			・実技試験

			授業 形態	年)		・授業貢献 度	
	2年			講義	時間数		120
	3年			演習	時間		60回
授業の概要	<p>歯周病予防法と齲蝕予防法の基礎知識と基本技術を学ぶ。歯周組織の健康像と病的変化を把握する。その手技としての各検査法、スケーリング、PMTCの技術を顎模型上で身につける。また、健康とQOLに関わりのある口腔保健管理の理論を学ぶ。予防的歯石除去法の基礎知識を学び、それに用いる器具・器材の使用法と手技を理解する。また、口腔観察の基本について学ぶ。齲蝕の原因及び齲蝕予防法を理解し、基礎的知識を習得する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周病予防法の基礎知識を理解し、基本的な技術を習得する。 2. 齲蝕の原因とその予防法を理解し、その知識と技術を習得する。 						
回	授業計画						
1	1.歯科予防処置法とは 2.口腔の基礎知識						
2	歯周病の基礎知識Ⅰ（口腔内の付着物・沈着物）						
3	齲蝕の基礎知識①（齲蝕はどのようにできるのか？）						
4	齲蝕の基礎知識②（齲蝕を予防するには？）						
5	歯周病の基礎知識Ⅱ（歯周病の分類と原因）						
6	齲蝕活動性試験①（各種検査方法について①）（講義・実習）						
7	齲蝕活動性試験②（実習）（各種検査方法について②・まとめ）						
8	歯周組織検査（基礎知識と器材の取り扱い、顎模型実習）						
9	歯周組織検査実習①（ファントム使用）						

10	歯周組織検査実習②（ファントム使用）
11	実技試験 歯周組織検査（顎模型）
12	スケーリングの基礎知識（1.スケーリングとは 2.スケーリングに用いる器具器材 3.ミラーテクニック）
13	スケーリングの基礎知識（1.スケーリングとは 2.スケーリングに用いる器具器材 3.ミラーテクニック）
14	スケーリング実習（ファントム使用）
15	中間評価
16	シックルタイプスケーラー実習（ファントム使用）（スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング）21～27 番 歯、11～17 番歯
17	シックルタイプスケーラー実習（ファントム使用）（スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング）41～47 番 歯、31～37 番歯
18	歯面研磨（基礎知識と顎模型操作）
19	超音波スケーラーについて（基礎知識と顎模型操作）
20	超音波スケーラー実習（ファントム使用） 12
21	歯周組織検査実習（相互実習）
22	シックルタイプスケーラー相互実習（術式説明、留意点）13～23 番歯①②
23	シックルタイプスケーラー相互実習 31～37 番歯①②
24	シックルタイプスケーラー相互実習 41～47 番歯①②
25	シックルタイプスケーラー相互実習 14～17 番歯、24～27 番歯①

26	シックルタイプスケーラー相互実習 14～17 番歯、24～27 番歯②
27	超音波スケーラー相互実習①
28	超音波スケーラー相互実習②
29	超音波スケーラー相互実習③
30	中間評価
31	キュレットスケーラーについて（基礎知識・顎模型上での実習）
32	キュレットスケーラー実習（ファントム使用）
33	キュレットスケーラー相互実習 13～23 番歯①②
34	キュレットスケーラー相互実習 13～23 番歯③、33～43 番歯①
35	キュレットスケーラー相互実習 33～43 番歯②③
36	キュレットスケーラー相互実習 34～38 番歯①②
37	キュレットスケーラー相互実習 34～38 番歯③、44～48 番歯①
38	キュレットスケーラー相互実習 44～48 番歯②③
39	キュレットスケーラー相互実習 24～28 番歯①②
40	キュレットスケーラー相互実習 24～28 番歯③、14～18 番歯①
41	キュレットスケーラー相互実習 14～18 番歯②③
42	歯面清掃器について（エアフロー）
43	エアフロー相互実習①
44	エアフロー相互実習②
45	中間評価
46	フッ化物溶液歯面塗布法について（基礎知識）

47	フッ化物溶液ゲル歯面塗布法 実習手順説明（相互実習）
48	フッ化物溶液ゲル歯面塗布法（相互実習）
49	フッ化物フォーム応用時の使用量確認 実習手順説明（相互実習）
50	フッ化物フォーム応用時の使用量確認（相互実習）
51	小窩裂溝填塞法 実習手順説明（ファントム使用）
52	小窩裂溝填塞法（ファントム使用）
53	手用スケーラーのシャープニング法（シクルスケーラー）
54	手用スケーラーのシャープニング法（キュレットスケーラー）
55	各種器材によるスケーリング（相互実習）①
56	各種器材によるスケーリング（相互実習）②
57	各種器材によるスケーリング（相互実習）③
58	各種器材によるスケーリング（相互実習）④
59	各種器材によるスケーリング（相互実習）⑤
60	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬 13 出版株式会社
参考書	
備考	

科目名	歯科予防処置演習 5 (臨床評価)		担当	生野美絵			
	年次	歯科衛生士学科		2 学年	開講時期	後期	単位数
			授業形態	講義	時間数	30 時間	

時期				演習			・授業貢献度
					授業回数	15回	
授業の概要	<p>歯周組織検査，スケーリング，PMTC の技術を相互実習を通して身につける。「歯科予防処置演習Ⅰ（基礎知識・基本技術）」，「歯科予防処置演習Ⅱ（臨床前期）」及び「歯科予防処置演習Ⅲ（臨床後期）」で学んだ歯周病予防法の知識や技術を踏まえ，実際の口腔内から病的変化を把握し，それにあった術式を理解する。また，「歯科予防処置演習Ⅰ（基礎知識・基本技術）」，「歯科予防処置演習Ⅱ（臨床前期）」及び「歯科予防処置演習Ⅲ（臨床後期）」で学んだ，齲蝕予防法の知識，技術を基に，小窩裂溝処置法の技術を相互実習を通して習得する。</p>						
到達目標	<p>① 齲蝕予防に必要な知識に基づき、齲蝕活動性試験の技術を習得する。</p> <p>② フッ化物歯面塗布法の目的と方法を理解し実践できる。</p> <p>③ 歯周病予防法の知識に基づいた検査およびスケーリングができる</p>						
回	授業計画						
1	齲蝕活動性試験（プラークチェック pH）						
2	齲蝕活動性試験（プラークチェック pH）						
3	フッ化物溶液歯面塗布法についての基礎講義 溶液・ゲル（ゼリー）の味の確認実習						
4	フッ化物溶液ゲル（ゼリー）歯面塗布法 実習手順 説明 マネキン実習						
5	フッ化物溶液ゲル（ゼリー）歯面塗布法 マネキン実習						
6	フッ化物フォーム応用時の使用量確認／実習手順説明 マネキン実習						
7	フッ化物フォーム応用時の使用量確認／マネキン実習						
8	小窩裂溝填塞法 実習手順説明 （マネキン実習）						
9	小窩裂溝填塞法 実習手順説明 （マネキン実習）						

10	小窩裂溝填塞法 実習手順説明 (マネキン実習)
11	小窩裂溝填塞法 実習手順説明 (マネキン実習)
12	各種器材によるスケーリング (マネキン実習)
13	各種器材によるスケーリング (マネキン実習)
14	各種器材によるスケーリング (マネキン実習)
15	まとめ
教科書	「歯科衛生士のための齲蝕予防処置法」中垣晴男ほか編著、医歯薬出版株式会社「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬 出版株式会社
参考書	
備考	

15

科目名	歯科保健指導論		担当	筒井 紀子			
年次	歯科衛生士学科	2年	開講時期	前期	単位数	2単位	評価法 ・記述試験
				後期			
時期			授業形態	講義	時間数	60時間	
				演習			・発表態度
					授業回数	30回	
授業の概要	<p>歯科保健指導とは、「個人や集団を対象として、生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動に変容させるために行われる専門的な指導」のことをいう。本講義では、健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識を習得する。ま</p>						

	た、論文からの情報を収集し、エビデンスを批判的吟味（クリティカルシンキング）し、医療行為に論理的裏づけを行うための論文検索方法および読み方を修得する。
到達目標	医療・介護・福祉・保健の場において、人々の健康に対するニーズに科学的根拠をもって応えられるために、歯科保健指導に関する知識の習得および論文から得られた情報を収集・批判的吟味した成果をプレゼンテーションする。
回	授業計画
1	歯科保健指導論の概要と健康
2	行動変容とそのステップ
3	食生活と栄養
4	口腔の基礎知識
5	対象別の歯科衛生介入　－妊産婦期－
6	対象別の歯科衛生介入　－新生児期・乳児期－
7	対象別の歯科衛生介入　－幼児期－
8	対象別の歯科衛生介入　－学齢期－
9	対象別の歯科衛生介入　－青年期－
10	対象別の歯科衛生介入　－成人期－
11	対象別の歯科衛生介入　－老年期－
12	対象別の歯科衛生介入　－要介護高齢者－
13	対象別の歯科衛生介入　－障がい者（児）－
14	大規模災害時の歯科保健活動
15	地域歯科保健活動

⑩⑥	歯科衛生士業務記録の基礎知識 —SOAP の記載方法を学ぶ—
⑩⑦	歯科衛生士課程はなぜ必要か？ —身近な出来事から学んでみる—
⑩⑧	歯科衛生ケアプロセス①アセスメント（情報収集・記録・情報の処理）
⑩⑨	歯科衛生ケアプロセス②歯科衛生・保健行動の理論・概念モデルの応用
⑩⑩	歯科衛生ケアプロセス③歯科衛生診断
⑩⑪	歯科衛生ケアプロセス④計画立案
⑩⑫	歯科衛生ケアプロセス⑤実施
	16
⑩⑬	歯科衛生ケアプロセス⑥評価
⑩⑭	歯科衛生ケアプロセス⑦発表
⑩⑮	ライフステージにおける歯科衛生介入 —妊産婦期—（症例検討・グループワーク）
⑩⑯	ライフステージにおける歯科衛生介入 —幼児期—（症例検討・グループワーク）
⑩⑰	ライフステージにおける歯科衛生介入 —学齢期—（症例検討・グループワーク）
⑩⑱	ライフステージにおける歯科衛生介入 —青年期—（症例検討・グループワーク）
⑩⑲	ライフステージにおける歯科衛生介入 —成人期—（症例検討・グループワーク）
⑩⑳	ライフステージにおける歯科衛生介入 —老年期—（症例検討・グループワーク）
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第 2 版（医歯薬出版） 歯科衛生ケアプロセス実践ガイド
参考書	歯科衛生学シリーズ（医歯薬出版） 高齢者歯科 第 2 版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学
備考	

科目名	歯科保健指導演習 2		担当	筒井 紀子			
年次	歯科衛生士学科	2 学年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価法 記述試験 発表態度
			授業形態	演習 講義	時間数	30 時間	
時期					授業回数	15 回	
授業の概要	現代の人々の健康に対する意識は高く、保健・医療・福祉の分野においても QOL(Quality of life； 生						

	<p>活の質)の向上の時代となっている。歯科医療においても治療(cure)から予防(care)重視へと変わり、ヘルスプロモーションの考えが基盤となっている。このような時代背景をふまえて本演習では、一年次で修得した歯科保健指導の基本的な知識・技術・態度をもとに、現代社会のニーズに対応できる歯科衛生士を目指すため、実践的な保健指導に関する知識・技術・態度を修得する。</p>
到達目標	<p>歯科保健指導を行うにあたり、人々を望ましい歯科保健行動変容へ導くための、個人および集団の状況に合わせた指導ができるための知識・技術・態度を修得する。</p>
回	授業計画
1	禁煙支援（基礎知識、症例検討、グループディスカッション）
2	診療録・問診事項の理解、医療面接の基礎知識
3	健康教育（第15回小集団指導の発表に向けた基礎知識の習得およびテーマ決め）
4	医療面接ロールプレイ・グループディスカッション
5	歯ブラシの基礎知識および各種ブラッシング法の実践
6	ブラッシング方法の説明・指導ロールプレイ・グループディスカッション
7	歯ブラシ以外の清掃用具（補助用具）の基礎知識および操作法の実践
8	補助用具の説明・指導ロールプレイ・グループディスカッション
9	各種電動歯ブラシ、口腔清掃状態の指数(OHI)の基礎知識
10	口腔清掃状態の指数(PCR)の基礎知識
11	口腔清掃状態の指数(P _{ell})の基礎知識
12	歯垢染色相互実習【A班】 / 小集団指導の準備【B班】 / 歯科予防処置演習4【C班】
13	歯垢染色相互実習【C班】 / 小集団指導の準備【A班】 / 歯科予防処置演習4【B班】
14	歯垢染色相互実習【B班】 / 小集団指導の準備【C班】 / 歯科予防処置演習4【A班】

15	小集団指導ロールプレイ（発表・ディスカッション）
教科書	歯科衛生学シリーズ（医歯薬出版） 歯科予防処置論・歯科保健指導論
参考書	歯科衛生学シリーズ（医歯薬出版） 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学
備考	第 12 回～第 14 回は、A・B・C の 3 グループの組分け実習とする。 （歯科保健指導演習 2 と歯科予防処置演習 4 の組分け）

18

科目名	歯科保健指導演習 3		担当	筒井 紀子			
年次	歯科衛生士学科	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価法 ・レポート
			授業形態	演習 講義	時間数	30 時間	
時期					授業回数	15 回	
授業の概要	<p>1 年次で修得した歯科に関する知識・技術・態度を基盤として、対象となる人のニーズに応じた歯科衛生を 実践する能力を身につける。事例を用いて歯科衛生過程の進め方を実践し、臨地実習に向けて書面化を学 ぶ。また、後輩（1 年生）へ指導する体験を通じて、歯・口腔・全身の健康管理に関わるコミュニケーション能 力を培い、ストレスマネジメントを実践する。また、さまざまなメーカーのオーラルヘルス製品について理解を深め、 臨地実習で活用できる知識・技術・態度を修得する。</p>						
到達目標	<p>臨地実習において対象者の歯科衛生ニーズに合わせた支援をするために必要な情報収集を行い、論理的 に思考し、問題発見および解決するための過程を修得する。</p>						
回	授業計画						

①	おとなのデンタルヘルス歯科保健指導見学（半数ずつ：歯科診療補助演習3と同時実施）
②	歯科衛生研究①（クリニカルクエスチョンからリサーチクエスチョンへ）
③	歯科衛生研究②（文献検索）
④	歯科衛生研究③（プレゼンテーション作成①）
⑤	歯科衛生研究④（プレゼンテーション作成②）
⑥	歯科衛生研究⑤（プレゼンテーション①）
⑦	歯科衛生研究⑥（プレゼンテーション②）
⑧	さまざまなメーカーの口腔清掃用具（歯ブラシ）の基礎知識
⑨	さまざまなメーカーの口腔清掃用具（音波歯ブラシ）の基礎知識
⑩	さまざまなメーカーの口腔清掃用具（歯ブラシ以外）の基礎知識
⑪	臨床における滅菌・消毒
⑫	口腔機能検査（咬合力・舌圧・咀嚼能力）
⑬	デンチャーケアについて（義歯洗浄剤・安定剤の使用方法）
⑭	ストレスマネジメント（アロマセラピー）【A 班】
⑮	ストレスマネジメント（アロマセラピー）【B 班】
教科書	歯科衛生学シリーズ（医歯薬出版） 歯科予防処置論・歯科保健指導論
参考書	（医歯薬出版） 歯科衛生研究の進め方 論文の書き方 第3版
備考	

科目名	歯科診療補助演習 2		担当	田巻 菜穂子			
年次	歯科衛生士学科	2 学年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価法 ・実技試験 ・受講態度
			授業形態	講義 演習	時間数	30 時間	
時期					授業回数	15 回	
授業の概要	<p>歯科診療補助に関する知識と基本的技術を習得し、臨床の場に対応し得る能力を身につける。また、歯科診療の補助及び歯科診療の介助について理解し、その基本的知識を学ぶ。基本的技術においては、顎模型・マネキン・相互実習の段階を経て習得する。「歯科診療補助演習Ⅰ（基礎知識・基本技術）」で学んだ基礎知識及び技術を踏まえ、各治療内容に応じた適切な器材セッティング、材料の取り扱いについて留意事項を理解した上で歯科診療の補助に対応できるような応用力を身につける。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床の場に対応できる基本技術から応用技術までを習得する。 ・各治療内容における必要器材セッティングの基礎的知識及び技術を学ぶ。 						
回	授業計画						
1	ラバーダム防湿の基礎知識・マネキン実習						
2	成形歯冠修復材（コンポジットレジン・グラスアイオノマー）						
3	成形歯冠修復材（コンポジットレジン・グラスアイオノマー）症例① マネキン実習						
4	成形歯冠修復材（コンポジットレジン・グラスアイオノマー）症例② マネキン実習						
5	口腔外科器材の取り扱い（器材名称と用途）						
6	口腔外科器材の取り扱いの実践 症例① マネキン実習						

7	口腔外科器材の取り扱いの実践 症例② マネキン実習
8	歯内療法器材の取り扱い（器材名称と用途）
9	歯内療法器材の取り扱いの実践 症例① マネキン実習
10	歯内療法器材の取り扱いの実践 症例② マネキン実習
11	歯科補綴器材の取り扱い（器材名称と用途）
12	歯科補綴器材の取り扱いの実践 症例① マネキン実習
13	歯科補綴器材の取り扱いの実践 症例② マネキン実習
14	アルジネート印象材の器械練和による概形印象採得／予備模型作製実習
15	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「歯科衛生学シリーズ 歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会編集、医歯薬出版株式会社「歯科衛生学シリーズ 歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会編集、医歯薬出版株式会社
参考書	
備考	

20

科目名	歯科診療補助演習 3		担当	田巻 菜穂子			
年次	歯科衛生士学科	2 学年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価法
時期			授業形態	講義 演習	時間数	30 時間	・実技試験 ・受講態度

					授業回数	15回	
授業の概要	<p>「歯科診療補助演習 2」で学んだ歯科診療補助に関する知識とその基本的技術の反復習熟を行い、臨床の場での対応能力を更に伸長させる。また、歯科診療の補助及び歯科診療の介助についてのさらなる理解とその基本的知識を学ぶ。基本的技術についても顎模型・マネキン・相互実習のそれぞれの段階を経た習熟を行う。「歯科診療補助演習 1（基礎知識・基本技術）」及び「歯科診療補助演習 2」で学んだ知識と技術を踏まえ、歯科診療の模擬患者を設定し、症例別にその具体的留意事項を理解した上で歯科診療の補助に対応できるような応用力を身につける。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床の場に対応できる基本技術から応用技術までを習得する。 ・各治療内容における必要器材セッティングの基礎的知識及び技術を学ぶ。 						
回	授業計画						
1	矯正歯科診療の流れ（使用器材の名称と用途）						
2	矯正歯科器材の取り扱い（ブラケット装着方法）						
3	矯正歯科器材の取り扱い（ブラケット撤去方法）						
4	歯肉排除法 基礎知識						
5	歯肉排除法 マネキン実習						
6	各種隔壁法／歯周パットの取り扱い						
7	シリコーンゴム印象材による精密印象採得①						
8	シリコーンゴム印象材による精密印象採得②						
9	暫間被覆冠の基礎知識／暫間被覆冠作成方法の手順説明						
10	暫間被覆冠（レジン冠）作成実習						
11	暫間被覆冠（印象法）作成実習						

12	口腔内写真撮影の基礎知識
13	口腔内写真撮影①（相互実習）
14	口腔内写真撮影②（相互実習）
15	まとめ
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「歯科衛生学シリーズ 歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「歯科衛生学シリーズ 歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	
備考	

科目名	感染予防法		担当	筒井 紀子			
年次	歯科衛生士学科	2 学年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価法 ・記述試験 ・受講態度
			授業形態	講義 演習	時間数	20 時間	
	時期				授業回数	10 回	
授業の概要	<p>歯科医療行為では、患者の唾液や血液等が混じったエアロゾルが発生する頻度が高く、歯科医療従事者の感染リスクは高い。また、外科的治療も多く行われており、針刺しや切創事故も発生しやすく、医療安全対策も重要である。近年の新型感染症の感染拡大に伴い、歯科医療の現場においてもスタンダードプリコーションに基づいた十分な感染予防対策を講じる必要がある。感染症に関わる予防法について理解し、臨床現場で実践できる能力を習得する。また、感染が起こる原因の理解と感染予防対策の具体的方法について理解</p>						

	を深める。
到達目標	臨床現場においてスタンダードプリコーションに基づいた感染対策を行うために、感染予防に関する知識・技術・態度を修得する。
回	授業計画
1	標準予防策（スタンダードプリコーション）、正しい手指衛生、個人防護具（PPE）
2	感染経路対策（空気感染・飛沫感染・接触感染・血液媒介感染）、正しいマスクの着用
3	滅菌・消毒・洗浄、滅菌物の取扱い
4	歯科診療における感染予防対策（ユニット周辺の清拭順序、手指衛生のタイミングなど）
5	廃棄物の処理（バイオハザードマークの種類、廃棄物の分別、鋭利な廃棄物の処理）
6	個人防護具（PPE）の実践
7	新型コロナウイルス感染症 “3つの感染症”（病気・不安・差別）グループワーク
8	新たな感染症を踏まえた歯科診療の指針（日本歯科医師会）の理解
9	一般歯科診療時の院内感染対策に係る指針（厚生労働省委託事業）の理解
10	振り返り（臨地実習に向けた感染予防法の理解）
教科書	「歯科医療における国際標準 感染予防対策テキスト 滅菌・消毒・洗浄」（医歯薬出版）
参考書	「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論」（医歯薬出版）
備考	

科目名	臨地実習 2		担当	齋藤慕子			
年次	歯科衛生士学科	2 学年	開講時期	後期 (2 学年)	単位数	12 単位	評価法 実習態度
		3 学年		前期 (3 学年)			
時期			授業形態	実習	時間数	540 時間	レポート
授業の概要	<p>2 年次後期から始まる本科目では、1 年次で習得した学習内容を応用し、より高度で実践的な知識・技術・態度を学ぶとともに、地域社会での歯科衛生士の有様を現場で学ぶ。そのために、歯科診療での臨床実習に加え、小中学校での臨地実習も行う。各ライフステージに合わせた歯科保健指導を行うことができる技術を身につける。</p>						
到達目標	<p>1) 臨床現場における歯科衛生士の業務を実践することで自分の歯科衛生士像を具体的にイメージする。</p> <p>2) 学内で学んだ知識、技術を具体的かつ実践的にできる。</p>						
回	授業計画						

1. 実習期間

- 1) 地域歯科診療所 : 9月～3月 (74日間) 8:30～16:30 7時間
- 2) 小中学校 : 施設に合わせる(4日間) 9:00～14:30 5.5時間

2. 実習の目的

1) 地域診療所臨床実習

- (1) 学校内で学んだ知識・技術・態度を具体的に理解し、実行できる能力を身につける。
- (2) 自己を客観的に評価し、社会人および専門職としての自覚と責任を持ち、自ら考えて向上できる能力を身につける。
- (3) 歯科医院の業務の流れを把握し、学校内で学んだ知識・技術・態度を実習により確認する。

2) 小中学校実習

- (1) 学校保健の現場を歯科衛生士の目線から見ることで、行政の保健活動を理解する。
- (2) 児童・学生の歯式の記録から、口腔内の個人さを理解する。
- (3) 児童・学生の生態を理解する。

3. 実習計画

1) 地域診療所臨床実習

- 実習項目) ・診療室内の環境整備
- ・患者誘導
- ・処置別の使用器具・器材の準備、片付け
- ・診療補助
- 23
- ・各種検査記録
- ・各種セメント、印象材の取り扱い
- ・口腔内写真補助
- ・レントゲンセッティング
- ・保健指導

2) 小中学校実習

- 実習項目) ・学校検診の準備
- ・歯式記録
- ・児童・学生とコミュニケーションをとる。

備考

毎週実習報告会を実施する。

科目名	医療事務・電子カルテ操作		担当	齋藤 慕子 他			
年次	歯科衛生士学科	2年	開講時期	後期	単位数	1単位	評価法 ・試験
			授業形態	講義	時間数	20時間	
時期				演習	授業回数	10回	・受講態度
授業の概要	医療保険の仕組み（歯周治療の流れ、介護保険）レセプト、電子カルテ操作を学ぶ。						
到達目標	医療保険から歯周病の治療を立案できる。						
回	授業計画						
1	医療機関の概要・医療保険の仕組み 医療機関の概要、医療保険制度①						
2	医療機関の概要・医療保険の仕組み 医療保障制度② 保険給付						
3	その他の関連制度 公費負担医療、その他の関連制度、算定・請求の電子化						
4	傷病による治療と算定 基本診療料						

5	傷病による治療と算定 特掲診療料
6	傷病による治療と算定 硬組織疾患、歯髄疾患
7	傷病による治療と算定 歯周組織疾患
8	傷病による治療と算定 軟組織疾患
9	傷病による治療と算定 歯周疾患
10	まとめ
教科書	医療事務講座 テキスト/医療保障制度 (歯科) テキスト2 診療報酬の算定 テキスト3 サポートブック
参考書	
備考	

科目名	東洋医学概論		担当	佐藤徳昭			
年次	歯科衛生士 学科	2年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法 ・試験

時期			授業形態	講義	時間数	20 時間	・受講態度
					授業回数	10 回	
授業の概要	東洋医学を学び、西洋医学との違いを理解する。						
到達目標	東洋医学を取り入れ、歯科治療に応用できるようになる。						
回	授業計画						
1	オリエンテーション／東洋医学・鍼灸について						
2	東洋医学の沿革						
3	陰陽五行の概略						
4	生体物質(精・気・血・津液)						
5	蔵象学説(五臓六腑・寄恒の腑)						
6	蔵象学説(肝・心・脾)						
7	蔵象学説(肺・腎・心包・三焦)／病因						
8	経絡経穴の概略						
9	経絡経穴の概略／練習問題						
10	練習問題の解説／取穴と鍼灸体験						
教科書	適宜、プリント配布						
参考書	オールカラー版 基本としくみがよくわかる東洋医学の教科書 単行本 ナツメ社 新版 東洋 医学概論 公益社団法人東洋療法学校協会 著者：教科書検討小委員会						
備考							

科目名	最先端歯科		担当	生野美絵			
年次 時期	歯科衛生士学科	2 学年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価法 ・試験 ・受講態度
			授業形態	講義	時間数	30 時間	
				演習	授業回数	15 回	
授業の概要	<p>齲蝕や歯周病の治療などによる機能の回復のみならず審美的な回復によっても QOL は向上する。そこで、現在多くの歯科医院で行われているホワイトニングについての基礎的な知識と相互実習を通して実践的な手技を身につける。ホワイトニングに関しては、使用する薬品や器材について理解し、演習を通してその効果や安全性、メリットとデメリットについて学ぶ。また、審美歯科の種類やその概要、ホワイトニングケア、予防法など審美歯科についての基礎的な知識を学ぶ。</p>						
到達目標	<p>歯科衛生士が行うホワイトニングの知識およびそれらに使用する歯科材料の理解と共に、操作技術を習得する。</p>						
回	授業計画						
1	審美歯科学論						
2	ホワイトニングについての基礎知識						

3	オフィスホワイトニングについての基礎知識
4	オフィスホワイトニングの実習内容及び手順
5	オフィスホワイトニング 実習①
6	オフィスホワイトニング 実習②
7	オフィスホワイトニング 実習③
8	オフィスホワイトニングのメンテナンス
9	ホームホワイトニングについての基礎知識
10	ホームホワイトニングの実習内容及び手順
11	ホームホワイトニングカスタムトレイ作製 実習①
12	ホームホワイトニングカスタムトレイ作製 実習②
13	ホームホワイトニングカスタムトレイ作製 実習③
14	ホームホワイトニングメンテナンス
15	まとめ
教科書	歯科衛生士ベーシックスタンダード ホワイトニング (医歯薬出版株式会社)
参考書	
備考	

三条看護・医療・歯科衛生専門学校

2023 年度
歯科衛生士学科

第 3 学年（2 期生）

シラバス

名簿番号 氏名

三条看護・医療・歯科衛生専門学校（HOSP!）のポリシー

〈 教育の基本理念・建学の精神 〉

高い専門能力を追求しながらも、単に知識・技術教育に偏ることなく、広い視野と豊かな人間性を持った、創造性に満ちた人材の育成を通じ、地域医療に貢献することで、地域の課題に寄与していく。

〈 教育方針 〉

目的：現代社会・地域において求められている医療系人材の育成

「専門性・人間性・創造性」と共に、社会的常識・基本マナー、高いコミュニケーション能力、明るく健康的で建設的な意志等を兼ね備えた、地域の医療現場で貢献し続けることができる専門職業人を育成。

アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針） **全学科共通**

1. 相手の気持ちに配慮し、自分の思いを伝えるコミュニケーションができる人
2. 命の大切さを考え、優しい行動がとれる人
3. 物事になぜという疑問を持ち、考えようとする人
4. 他者と協調し、チーム連携、協働ができる人
5. 学び続ける意欲がある人

カリキュラムポリシー（教育課程編成方針） **歯科衛生士学科**

《人間力・教養の涵養*（かんよう）》*自然にしみこむように養成すること

多角的視点で理解できる力を養うために、専門科目以外に人間関係論、倫理学をはじめ基礎的な教養科目を配置する。更に、人間力育成のために接遇・マナーの科目を入学後早期に配置する。

《専門力・チーム協働力》

自ら考え、自ら学習する力を養うために、能動型の授業・実習を実施する。保健・医療・福祉チームの一員としての認識を深めるために、多様な場での臨地実習（歯科医院・高齢者施設・訪問看護・教育機関等での実習）を配置する。

《自己研鑽》

社会の変化に対応した専門職として学び続ける姿勢を身につけるために、目的・目標を意識した学習活動を実践する。更に、国家試験合格に向けた計画実践検証型の学習方法を実施する。

ディプロマポリシー（卒業認定・人材育成方針） **歯科衛生士学科**

1. 人間を尊重し、感性豊かな人間性を身につけている。
2. 対象者個々の健康を自然、社会、文化的環境など全体的な視点から見ることができ理解できる能力を身につけている。
3. 対象者の持つ問題を解決する点をアプローチできる基礎的能力を身につけている。
4. 保健、医療、福祉チームの一員としての役割を担うことができる。
5. 口腔衛生の本質を理解して、自らの口腔衛生に対する考えを明確にすることができる。

歯科衛生士学科 第3学年 授業科目一覧

区分	教育内容	科目	前期	後期	ページ
専門分野	歯科予防処置論	歯科予防処置1（基礎知識・基本技術）	✓		1-3
	歯科保健指導論	口腔リハビリテーション論	✓	✓	4-5
	歯科診療補助論	救急法・救急蘇生法	✓		6
		口腔リハビリテーション演習		✓	7
	臨地実習	臨地実習3	✓	✓	8-9
選択必修分野		介護技術	✓		10

<留意事項>

1. 授業の日程や内容等に変更が生じる場合あり（感染症の拡大状況や災害等による）。
2. 授業に関する連絡は、口頭もしくは push 通知でお知らせするため、毎日複数回 push 通知を確認すること。

科目名	歯科予防処置 1 (基礎知識・基本技術)		担当	生野美絵			
年次	歯科衛生士学科	1年	開講 時期	前期 (1,3 年)	単位数	4単位	評価法 ・筆記試験 ・実技試験 ・授業貢献 度
時期				後期 (1,2 年)			
		2年	授業 形態	講義	時間数	120 時間	
		3年		演習			授業回数
授業の概要	<p>歯周病予防法と齲蝕予防法の基礎知識と基本技術を学ぶ。歯周組織の健康像と病的変化を把握する。その手技としての各検査法、スケーリング、PMTCの技術を顎模型上で身につける。また、健康とQOLに関わりのある口腔保健管理の理論を学ぶ。予防的歯石除去法の基礎知識を学び、それに用いる器具・器材の使用法と手技を理解する。また、口腔観察の基本について学ぶ。齲蝕の原因及び齲蝕予防法を理解し、基礎的知識を習得する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周病予防法の基礎知識を理解し、基本的な技術を習得する。 2. 齲蝕の原因とその予防法を理解し、その知識と技術を習得する。 						
回	授業計画						
1	1.歯科予防処置法とは 2.口腔の基礎知識						
2	歯周病の基礎知識Ⅰ（口腔内の付着物・沈着物）						
3	齲蝕の基礎知識①（齲蝕はどのようにできるのか？）						
4	齲蝕の基礎知識②（齲蝕を予防するには？）						

5	歯周病の基礎知識Ⅱ（歯周病の分類と原因）
6	齶蝕活動性試験①（各種検査方法について①）（講義・実習）
7	齶蝕活動性試験②（実習）（各種検査方法について②・まとめ）
8	歯周組織検査（基礎知識と器材の取り扱い、顎模型実習）
9	歯周組織検査実習①（ファントム使用）
10	歯周組織検査実習②（ファントム使用）
11	実技試験 歯周組織検査（顎模型）
12	スケーリングの基礎知識（1.スケーリングとは 2.スケーリングに用いる器具器材 3.ミラーテクニック）
13	スケーリングの基礎知識（1.スケーリングとは 2.スケーリングに用いる器具器材 3.ミラーテクニック）
14	スケーリング実習（ファントム使用）
15	中間評価
16	シッケルタイプスケーラー実習（ファントム使用）（スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング）21～27 番 歯、11～17 番歯
17	シッケルタイプスケーラー実習（ファントム使用）（スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング）41～47 番 歯、31～37 番歯
18	歯面研磨（基礎知識と顎模型操作）
19	超音波スケーラーについて（基礎知識と顎模型操作）
20	超音波スケーラー実習（ファントム使用）

21	歯周組織検査実習（相互実習）
22	シックルタイプスケーラー相互実習（術式説明、留意点）13～23 番歯①②
23	シックルタイプスケーラー相互実習 31～37 番歯①②
24	シックルタイプスケーラー相互実習 41～47 番歯①②
25	シックルタイプスケーラー相互実習 14～17 番歯、24～27 番歯①
26	シックルタイプスケーラー相互実習 14～17 番歯、24～27 番歯②
27	超音波スケーラー相互実習①
28	超音波スケーラー相互実習②
29	超音波スケーラー相互実習③
30	中間評価
31	キュレットスケーラーについて（基礎知識・顎模型上での実習）
32	キュレットスケーラー実習（ファントム使用）
33	キュレットスケーラー相互実習 13～23 番歯①②
34	キュレットスケーラー相互実習 13～23 番歯③、33～43 番歯①
35	キュレットスケーラー相互実習 33～43 番歯②③
36	キュレットスケーラー相互実習 34～38 番歯①②
37	キュレットスケーラー相互実習 34～38 番歯③、44～48 番歯①
38	キュレットスケーラー相互実習 44～48 番歯②③
39	キュレットスケーラー相互実習 24～28 番歯①②
40	キュレットスケーラー相互実習 24～28 番歯③、14～18 番歯①
41	キュレットスケーラー相互実習 14～18 番歯②③

42	歯面清掃器について（エアフロー）
43	エアフロー相互実習①
44	エアフロー相互実習②
45	中間評価
46	フッ化物溶液歯面塗布法について（基礎知識）
47	フッ化物溶液ゲル歯面塗布法 実習手順説明（相互実習）
48	フッ化物溶液ゲル歯面塗布法（相互実習）
49	フッ化物フォーム応用時の使用量確認 実習手順説明（相互実習）
50	フッ化物フォーム応用時の使用量確認（相互実習）
51	小窩裂溝填塞法 実習手順説明（ファントム使用）
52	小窩裂溝填塞法（ファントム使用）
53	手用スケーラーのシャープニング法（シッケルスケーラー）
54	手用スケーラーのシャープニング法（キュレットスケーラー）
55	各種器材によるスケーリング（相互実習）①
56	各種器材によるスケーリング（相互実習）②
57	各種器材によるスケーリング（相互実習）③
58	各種器材によるスケーリング（相互実習）④
59	各種器材によるスケーリング（相互実習）⑤
60	まとめ
教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考書	

科目名	口腔リハビリテーション論		担当	木戸寿明、村松瑞人、平澤貴典、高井晃			
年次	歯科衛生士学科	3年	開講時期	前期	単位数	2単位	評価法
				後期		・試験	
時期			授業形態	講義	時間数	60時間	・受講態度
				演習		授業回数	
授業の概要	<p>超高齢社会の現代において、人生の最期までくちから食べることを支えるため多職種による連携は必要とされており、歯科衛生士は保険制度上において摂食訓練を実施できる数少ない専門職であると同時に専門的口腔ケアを実施できる職種である。本科目では専門的口腔ケア、摂食嚥下リハビリテーションの知識と技術、多職種連携に必要な医学的知識を習得する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下機能にかかわる解剖と生理、摂食嚥下機能障害の原因となる疾患を理解。 ・摂食嚥下機能のスクリーニング、アセスメント、検査、評価の理解。 ・摂食嚥下リハビリテーションの治療的、代償的、環境改善的アプローチ方法を理解。 ・口腔機能低下症を理解し口腔機能精密検査の方法を習得。 ・オーラルフレイル、口腔機能低下症の予防と改善方法の理解。 						
回	授業計画						
1	歯科衛生士と摂食嚥下リハビリテーション						
2	リハビリテーション医学・医療総論						
3	摂食嚥下リハビリテーションの実際と歯科衛生士の役割						
4	摂食嚥下リハビリテーションにおける口腔健康管理						
5	摂食嚥下障害患者に関する制度とチーム医療（多職種連携）						

6	摂食嚥下機能のメカニズム 摂食嚥下に関わる構造（解剖）
7	摂食嚥下機能のメカニズム 摂食嚥下に関わる機能（生理）
8	発達期の摂食嚥下機能
9	咬合と咀嚼機能
10	咀嚼の評価と管理
11	咬合・咀嚼と全身
12	栄養スクリーニングと栄養アセスメント、栄養ケア・栄養サポートチーム（NST）の概念
13	病院歯科における入院患者の口腔管理
14	全身管理の把握と対応・緊急時の対応・気管切開と吸引
15	発達期の摂食嚥下障害と原因疾患
16	成人期・老年期の疾患に伴い多く見られる摂食嚥下障害
17	発達期の摂食嚥下機能の評価
18	成人期（中途障害）および老年期（高齢期）に対する評価
19	口腔衛生管理実施前の評価・姿勢調整
20	口腔衛生管理の方法・リスク管理
21	摂食嚥下障害に対する訓練計画立案・食事指導
22	間接訓練の選択と実施
23	直接訓練の選択と実施
24	4 歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションの基本
25	医療的ケア時の口腔リハビリテーション
26	多職種連携とアドバンスケアプランニング

27	薬剤師・薬局との連携に必要な知識
28	楽しみながら行う口腔機能訓練（くちビルディング選手権）
29	まとめ1
30	まとめ2
教科書	「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版」 医歯薬出版 適宜プリント配布
参考書	
備考	

科目名	救急法・救急蘇生法		担当	幾野 博 田巻菜穂子 他			
年次	歯科衛生士学科	3年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法 筆記試験 実技試験
時期			授業形態	講義・演習	時間数	20時間	
				(対面授業と遠隔授業の併用実施)	授業回数	10回	
授業の概要	救急処置と蘇生法の基礎を学び、歯科医療スタッフの一員として現場で応用できるようになることを目的とする。一般的な救急処置と蘇生法及び歯科の臨床現場での救急処置と蘇生法について学ぶ。						
到達目標	歯科の臨床現場で、緊急時、正しい救急処置と心肺蘇生法を行うことができるようになる。						
回	授業計画						
1	バイタルサイン、心肺蘇生法(BLS)の知識・手技の習得						
2	歯科口腔外科診療時の局所的・全身的偶発症、その症状、対処法の習得						
3	全身的基礎疾患を有する歯科口腔外科患者の全身管理、その病態、発症時の対処法の習得						
4	インシデント・アクシデント報告、医療事故と法的責任、歯科衛生士に期待される役割についての理解						
5	応急手当の重要性 救命の処置						
6	気道異物除去 止血法 体位管理 搬送法						
7	心肺蘇生法の実技（成人） 周囲安全確認、反応の確認、通報、呼吸の確認						
8	心肺蘇生法の実技（成人）						
9	心肺蘇生法の実技（小児）						
10	特殊な傷病とその応急手当、まとめ						
教科書	「歯科衛生士講座 口腔外科学 第2版」 永末書店						

参考書	
備考	赤字：三条消防署より 黒字：幾野先生

6

科目名	口腔リハビリテーション 演習		担当	木戸寿明、平澤貴典、村松瑞人、高井晃			
	歯科衛生学科	3年		開講時期	後期	単位数	1単位
年次			授業形態	講義・実技	時間数	30時間	・試験
	時期			演習	授業回数	15回	・受講態度 ・実技試験
授業の概要	摂食嚥下リハビリテーションに必要な専門的口腔ケア、摂食訓練、内視鏡やエコーを用いた嚥下機能の評価方法、口腔機能精密検査の手技を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下リハビリテーションに必要な専門的口腔ケアの手技の習得。 ・口腔機能低下症精密検査の相互実習。 ・オーラルフレイル予防の指導と口腔機能訓練の相互実習。 ・嚥下内視鏡検査と超音波画像診断の手技の習得と検査画像からの解剖の理解。 						

	・誤嚥、窒息リスクのある患者に対する専門的口腔ケアの手技の習得。
回	授業計画
1	専門的口腔ケア、口腔衛生不良の検査（TCI） 相互実習 1
2	専門的口腔ケア、口腔衛生不良の検査（TCI） 相互実習 2
3	口腔機能低下症 精密検査 相互実習 1
4	口腔機能低下症 精密検査 相互実習 2
5	嚥下内視鏡検査・嚥下エコー演習、とろみ付け・スライスゼリー法・スクリーニング実習 1
6	嚥下内視鏡検査・嚥下エコー演習、とろみ付け・スライスゼリー法・スクリーニング実習 2
7	オーラルフレイル予防のための口腔機能訓練 相互実習 1
8	オーラルフレイル予防のための口腔機能訓練 相互実習 2
9	摂食嚥下リハビリテーション間接訓練 相互実習 1
10	摂食嚥下リハビリテーション間接訓練 相互実習 2
11	摂食嚥下リハビリテーション間接訓練 相互実習 3
12	摂食嚥下リハビリテーション間接訓練 相互実習 4
13	ハイリスク患者に対する専門的口腔ケア 相互実習 1
14	ハイリスク患者に対する専門的口腔ケア 相互実習 2
15	まとめ
教科書	「超高齢社会のための 新編 専門的口腔ケア」医歯薬出版 「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版」医歯薬出版 適宜プリント配布
参考書	
備考	

科目名	臨地実習 3		担当	齋藤慕子			
年次	歯科衛生士学科	3 学年	開講時期	通年	単位数	7 単位	評価法 実習態度
			授業形態	実習	時間数	315 時間	
時期					実習日数	46 日	レポート
授業の概要	<p>口腔衛生の専門職として、歯科衛生士に求められる責任感、誠実性、積極性、協調性、判断力を培い実践能力を養う。本科目では、地域歯科診療所、総合福祉センター、保育所での臨地実習を行う。「臨地実習 1」「臨地実習 2」で習得した知識、技術をもとに、ライフステージ別の口腔衛生を学ぶ。</p>						
到達目標	<p>1) 臨床現場における歯科衛生士の業務を実践することで自分の歯科衛生士像を具体的にイメージする。</p> <p>2) 学内で学んだ知識、技術を具体的かつ実践的にできる。</p>						
回	授業計画						

1. 実習期間

- | | | | | |
|-------------|----------|--------|------------|-------|
| 1) 地域歯科診療所 | : 4月～12月 | (40日間) | 8:30～16:30 | 7時間 |
| 2) 総合福祉センター | : 4月～12月 | (2日間) | 9:00～14:30 | 5.5時間 |
| | | (2日間) | 9:00～14:00 | 5時間 |
| 3) 保育所実習 | : 4月～12月 | (2日間) | 8:30～16:30 | 7時間 |

2. 実習の目的

1) 地域診療所臨床実習

- (1) 学校内で学んだ知識・技術・態度を具体的に理解し、実行できる能力を身につける。
- (2) 自己を客観的に評価し、社会人および専門職としての自覚と責任を持ち、自ら考えて行動できる能力を身につける。
- (3) 歯科医院の業務の流れを把握し、学校内で学んだ知識・技術・態度を実習により確認する。

2) 総合福祉センター実習

- (1) 地域の母子保健における歯科衛生士の役割を理解する。
- (2) 乳幼児の発育を理解する。
- (3) 歯科医院以外での歯科衛生士の仕事を体感する。

3) 保育所実習

- (1) 保育の現場を理解する。
- (2) 園児の発達段階及び個人差を観察する。

(3) 園児の日常活動、食事風景から口腔管理に必要な知識・技能・態度を身につける。

3. 実習計画

1) 地域診療所臨床実習

- 実習項目)
- ・診療室内の環境整備
 - ・患者誘導
 - ・処置別の使用器具・器材の準備、片付け
 - 8
 - ・診療補助
 - ・各種検査記録
 - ・各種セメント、印象材の取り扱い
 - ・口腔内写真補助
 - ・レントゲンセッティング
 - ・保健指導

2) 総合福祉センター実習

- 実習項目)
- ・歯科衛生士による指導の見学
 - ・歯式記録

3) 保育所実習

- 実習項目)
- ・園児、保護者、保育士とのコミュニケーションを行う
 - ・個々の園児に合った保健指導法の立案

科目名	介護技術		担当	宗村操			
年次	歯科衛生士学科	3年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価法
			授業形態	講義	時間数	20時間	
時期				演習	授業回数	10回	・受講態度 ・試験
授業の概要	高齢者、障がい者の介護技術を学ぶ。						
到達目標	高齢者、障がい者の身体的特徴、精神的特徴を理解した支援ができるようになる。						
回	授業計画						
1	介護の基本的な考え方（理論に基づいた支援、個別性、自立支援を考えた生活支援）						
2	介護を必要とする人の基本的理解（老化に伴う心身機能の変化、高齢者の疑似体験）						
3	自立に向けた移動、移乗の介助①（移動、移乗の意義と目的、移動動作の基本介助）						
4	自立に向けた移動、移乗の介助②（福祉用具を活用した支援）						
5	自立に向けた身支度の介助（身支度の意義と目的、基本介助）						
6	自立のに向けた食事の介助（食事の意味、摂食のメカニズム、自立に向けた基本介助）						
7	自立に向けた入浴・清潔の介助（清潔保持の基礎的知識、足浴、手浴）						
8	自立に向けた排泄の介助（排泄介助の意義目的、環境整備と基本介助法）						
9	障認知症者の基礎的理解（認知症者のケアの基本）						
10	まとめ						
教科書	プリント配布						
参考書	新介護福祉養成講座「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版、他						